

平成27年度

事業報告書

自：平成27年4月1日から

至：平成28年3月31日まで

学校法人 純心女子学園

長崎市三ツ山町 235 番地

【I】法人の概要

1 学校法人純心女子学園の沿革

昭和	9年	6月	本学設置母体である長崎純心聖母会創立
	10年	4月	純心女学院創立（長崎市中町）
	11年	4月	純心女学院改め長崎純心高等女学校開設
	12年	3月	長崎市家野町（現在 文教町）に校舎新築し移転
	12年	4月	純心幼稚園開設
	15年	5月	純心保母養成所開設（当時 九州唯一の保母養成所）
	20年	8月	原爆により校舎全焼214名の学徒殉難
	20年	10月	大村市植松町（元 大村海軍航空廠工員寄宿舎）に、昭和24年4月長崎市に復帰
	22年	4月	純心中学校開設
	22年	5月	純心女子専門学校（神学科・被服科）開設
	23年	4月	純心女子高等学校開設
	25年	4月	純心女子短期大学社会科開設（純心女子専門学校を母体とする）
	26年	2月	学校法人純心女子学園認可
	26年	4月	純心女子短期大学保育科開設（純心保母養成所を母体とする）
	26年	4月	聖心幼稚園開設
	42年	4月	西彼純心幼稚園開設
	50年	4月	純心女子短期大学 長崎市三ツ山町235番地に移転
	58年	4月	純心女子短期大学英米文化科開設
	63年	4月	純心幼稚園改築 純心こども図書館を併設
平成	元年	4月	純心女子短期大学社会科に人文社会専攻及び社会福祉専攻設置
	元年	12月	純心女子短期大学専攻科の設置
	3年	4月	純心女子短期大学専攻科開設
	3年	12月	純心女子短期大学専攻科の設置
	4年	4月	純心女子短期大学専攻科（人文社会専攻、英米文化専攻）学位授与機構認定
	5年	12年	長崎純心大学設置認可
	6年	4月	長崎純心大学 人文学部開設
	7年	3月	純心女子短期大学社会科人文社会専攻廃止・専攻科人文社会専攻廃止
	7年	4月	純心女子短期大学社会科を社会福祉科に学科名称変更
	8年	4月	純心女子短期大学専攻科（保育専攻）学位授与機構認定
	9年	12月	長崎純心大学大学院修士課程設置認可
	10年	4月	長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻修士課程
	11年	10月	長崎純心大学人文学部人間心理学科設置認可
	11年	12月	長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程設置認可
	12年	3月	純心女子短期大学社会福祉科廃止
	12年	4月	長崎純心大学人文学部人間心理学科開設
	12年	4月	長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程開設
	12年	4月	純心女子短期大学を長崎純心大学短期大学部に名称変更
	12年	10月	長崎純心大学人文学部英語情報学科設置認可
	13年	3月	長崎純心大学短期大学部英米文化科廃止
	13年	4月	長崎純心大学人文学部英語情報学科開設
	14年	5月	長崎純心大学人文学部児童保育学科設置認可
	15年	4月	長崎純心大学人文学部児童保育学科開設
	19年	3月	長崎純心大学短期大学部廃止
	19年	6月	長崎純心大学附属純心保育園開設
	20年	3月	西彼純心幼稚園廃止
	20年	4月	認定こども園認定（純心幼稚園・純心保育園）
	27年	4月	幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園に移行（←純心幼稚園・純心保育園）

2 設置する学校・学部・学科等及び所在地

設置する学校	開校年月日	設置する学部等	所在地
A 長崎純心大学	平成 6年4月1日	人文学部	長崎市三ツ山235番地
	平成 6年4月1日	比較文化学科	
	平成 6年4月1日	現代福祉学科	
	平成12年4月1日	人間心理学科	
	平成13年4月1日	英語情報学科	
	平成15年4月1日	児童保育学科	
	平成10年4月1日	大学院	
	平成10年4月1日	人間文化研究科(修士)	
	平成12年4月1日	人間文化研究科(博士)	
B 純心女子高等学校	昭和23年4月1日	全日制課程(普通科)	長崎市文教町13-15
C 純心中学校	昭和22年4月1日		長崎市文教町13-15
D 聖心幼稚園	昭和26年4月1日		佐世保市三浦町4-25
E 幼保連携型認定子ども園長崎純心大学附属純心幼稚園	平成27年4月1日		長崎市文教町13-15
※純心幼稚園(昭和12年4月1日開園)、純心保育園(平成19年4月1日開園)より移行			

3 学部・学科等の入学定員、学生数の状況

(1) 長崎純心大学

学年	学部	学科	入学定員	27年5月1日現在	備 考
1	人文学部	比較文化学科	40	34	
		現代福祉学科	60	39	
		人間心理学科	60	57	
		英語情報学科	40	35	
		児童保育学科	100	96	
	人間文化研究科(修士)	15	9		
	人間文化研究科(博士)	3	1		
	小 計	318	271		
2	人文学部	比較文化学科	40	54	
		現代福祉学科	65	53	
		人間心理学科	65	57	
		英語情報学科	40	34	
		児童保育学科	90	109	
	人間文化研究科(修士)	15	13		
	人間文化研究科(博士)	3	2		
	小 計	318	322		
3	人文学部	比較文化学科	40	42	
		現代福祉学科	65	55	
		人間心理学科	65	52	
		英語情報学科	40	33	
		児童保育学科	90	107	
	人間文化研究科(博士)	3	2		
	小 計	303	291		
4	人文学部	比較文化学科	40	49	
		現代福祉学科	70	68	
		人間心理学科	70	73	
		英語情報学科	40	44	
	児童保育学科	80	102		
	小 計	300	336		
大 学 合 計			1,239	1,220	

(2) 純心女子高等学校

学年	課 程 名	入学定員	27年5月1日現在	備 考
1	高校全日課程・普通科	280	222	
2		280	217	
3		280	230	
合 計		840	669	

(3) 純心中学校

学年	課 程 名	入学定員	27年5月1日現在	備 考
1	中学校	80	64	
2		80	68	
3		80	57	
合 計		240	189	

(4) 幼稚園

	入学定員	27年5月1日現在	備 考
聖心幼稚園	110	50	
合 計	110	50	

(5) 幼保連携型認定こども園

	入学定員	27年5月1日現在	備 考
幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園	250	213	
合 計	250	213	

4 役員・教職員の人数 (平成27年5月現在)

(1) 役 員

理 事 9名(うち、理事長1名、常勤理事4名)

理事長	片 岡 千鶴子	常 勤
理 事	山 野 アヤ子	非常勤
〃	片 岡 瑠美子	常 勤
〃	東 千代子	常 勤
〃	山 口 光 枝	常 勤
〃	塩 崎 弘 明	常 勤
〃	谷 川 憲 二	常 勤
〃	齋 藤 寛	非常勤
〃	高 見 三 明	非常勤

監 事 2名

監 事	柴 田 芳 男
監 事	白 濱 重 晴

(2) 評 議 員

20名

片 岡 千鶴子	田 口 知加子
山 野 アヤ子	玉 城 雄 一
片 岡 瑠美子	川 上 敏 彦
東 千代子	山 頭 照 美
高 見 三 明	池 田 洋 子
塩 崎 弘 明	山 口 光 枝
谷 川 憲 二	山 下 誠
荒 木 慎一郎	出 口 啓二郎
山 田 幸 子	能登原 勉
大 町 謙 治	齋 藤 寛

(3) 教員・職員

区分 部門	教 員								職 員			
	専任教員							非常勤 教員	教員 合計	専任	非常勤	職員 合計
教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	計						
法人	1						1		1	1	0	1
長崎純心大学	34	18	10	6	3	0	71	154	225	34	35	69
純心女子高等学校						47	47	14	61	8	6	14
純心中学校						14	14	2	16	2	2	4
聖心幼稚園						5	5	0	5	1	5	6
幼保連携型認定こども園純心幼稚園						17	17	14	31	3	17	20
合 計	35	18	10	6	3	83	155	184	339	49	65	114

【Ⅱ】事業概要

平成27年度事業計画概括

昨年度の事業計画は、主として学園創設80周年関連事業の総仕上げとそれに相呼応した第三期中期目標・計画実施の初年度にあたる基本計画の見定めを骨子とするものであった。これまでの営為を振り返り、かつ、これから先の営為を展望し得るにあたって、正に昨年度はその転換点に当たる年でもあった。その一方で、心して肝に銘じなければならぬことは、「ローマは、一日して成らず」との諺に託つて、学園にとって昨年度の1年がローマの場合の「一日」に符合するものであるなどと断わることもなし難く、喫緊の課題を負う本学園にとって「ローマ」の喩えを引き換えることなど招来し難いことと言わなければならないであろう。要は、事業計画の遂行に当たっては、「機を見るに敏」との気概が肝要かと思われる。

さて、学園としては、具体的に昨年度に学園創立80周年記念事業計画（「地域連携センター」の拡充整備、文教町キャンパス「中・高耐震化工事」・「認定こども園に向けての整備」の充実整備、奨学金の充実等）の全てを終え、平成27年12月5日（土）に記念式典及び祝賀会を開催し、来る100周年に向って新たな歩みを進めていくこととしており、20年先を見据えた取り組みを見定めている。

昨年からの実施の運びとなった、学園の中期目標計画たる教育関係の「カトリックの建学の精神」に基づき、ヒューマンズム教育と女子のリーダーシップ教育に努め、地域と世界に貢献し得る有能な人材を育成する」、研究・実践関係の「地域に根ざした研究・実践と世界に通じる独自の研究を推進する」、地域貢献関係の「平和の証を受け継ぎ、地域と共に未来を見据え、地域貢献に邁進する」、管理運営関係の「学園のガバナンスに則り、改革改善に努め、経営の責務を果たす」、財務関係の「定員確保による安定的財源と外部資金獲得により、財政基盤の強化を図り、教育費・研究費・人件費のバランスを保つ」の4項目に対して、点検評価を行い、学園総体として初めてのPDCAサイクル体制を立ち上げた。

なお、人口減少等により、学校法人を取り巻く環境は、ますます厳しいものとなっている中、本学園でも、その影響から免れ難く、中学校においては、平成19年度から入学定員100名を80名に、高等学校においては、平成23年度から入学定員300名を280名に変更したが、それでも定員割れが続いており、大学においてもこのような状況が予想されていたので、学生の募集を積極的に実施し、学生確保に努力して来たが、最終的に定員を満たすことができず、選ばれる大学としての改革・改善に鋭意取り組むも未だ道半ばにして結果を確実に出すに至っていない。改めて、広報活動・募集活動の戦略の再考をしなければいけないこととなった。

また、本年度から始まった幼保連携型認定こども園は、教育機能・保育機能・子育て支援機能を一体的一貫的に行うもので、本園においても今まで行ってきた、モンテッソーリ教育に基づき、園児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即して一貫した教育・保育、子育て支援を行っており、待機児童の解消に貢献しているものである。

いずれにせよ、事業計画の概括に当たっては、本法人の主体となる組織の求心力が高まる核をかため、改めて言うまでもなく「機を見るに敏」の事業計画を推進しなければならない。

平成27年度 純心女子学園事業報告(概要)

1. 法人

- ①創立 80 周年記念式典及び祝賀会を実施した。
- ②創立 80 周年記念展「純心ゆかりの作家、長崎ゆかりの作家」を開催した。
- ③平成 27 年度の点検評価を項目毎（教育、研究・実践、地域貢献、財務）及び事業所毎に行った。
- ④大学に学生寮「マダレナ寮」を平成 28 年 3 月 29 日に竣工した。

2. 大学院

- ①大学院の入試について（定員、学部成績上位者の推薦、ダブルディグリー、試験のあり方、授業料免除制）検討した。
- ②研究指導の関係でルールに従い、学生との研究計画立案、予備審査が密になった。

3. 大学

- ①平成 27 年～29 年度の点検評価工程表を策定した。
- ②平成 26 年度の自己点検評価項目（理念・目的、教育・教員組織、教育内容・方法・成果、学生の受入、学生支援、教育研究整備）を設定し、外部評価を受けた。
- ③長崎大学申請の「平成 27 年度未来医療研究人材養成拠点形成事業」に共同研究に参画し、採択された。
- ④私立大学等総合改革支援事業への取組（タイプ 1 教育の質的転換、タイプ 2 地域の発展を重層的に支える大学作り）に採択された。
- ⑤長崎大学申請の平成 27 年度大学改革推進等補助金「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業COC+」に参画した。
- ⑥私立大学等経営強化集中支援事業（タイプA）に採択された。

4. 中学校・女子高等学校

- ①平成 27 年度教育目標（聖母マリアに倣って学園の精神を生きる）、努力項目（・清く賢く優しい女性の育成・神様にも人にも喜ばれる女性の育成・平和を祈り、平和を生み出す女性の育成）を設定し実行した。
- ②「朝の読書」8 時 35 分～45 分（10 分間）を実施した。
- ③基礎力充実テストの導入・実施（週 1 回 朝礼時 中学は国・英・数 高校は国・英）した。
- ④長崎県「魅力ある私立学校づくり支援事業」の補助を受け、グローバル人材の育成に力を注いだ。
- ⑤実用英語技能検定を全員受検（高Ⅲ 6 月・高ⅠⅡ 10 月・中学 1 月）した。
- ⑥日本漢字能力検定受検（希望者）した。
- ⑦純心スポーツ特待制度を導入した。
- ⑧1 年に 1 回、クラスごとに三ツ山のセミナーハウスに宿泊し、農作業・奉仕活動を体験（錬成会）した。
- ⑨『ヨーロッパ・ピアノ五重奏団ミニコンサート イン 純心』（11 月 11 日 本校体育館）を開催した。

5. 幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園

①「よろこばれる人に」を目標として教育保育に努めた。

純心学園創立80周年の年にあたり、初代園長のお言葉を生きようと「神様にも、人さまにも喜ばれる人に」を標語にあげ、まずは教職員から笑顔で挨拶、自分にできる奉仕を喜んで実践し子どもたちにも毎日の教育保育の具体的な示唆としてきた。

②一人ひとりを大切にする暖かい関わりの合いの中で、神さまの愛と生命の尊さを知り、愛と奉仕のできる子どもの育ちを目指した。

③個別と自己活動によって自主・自立を助け、人格の基礎を培うモンテッソーリ教育において、0～6歳児のモンテッソーリ教育を導入し、個別活動の時間を充実させることが出来た。今後は0～3歳のモンテッソーリ教育の充実を図った。

④次世代の交流として 芋の苗植え、芋掘り、老人ホーム慰問、勤労感謝訪問など地域の方とのふれあいを持った。

6. 聖心幼稚園

①モンテッソーリ教育を柱として、環境整備を充実させ精神的・身体的バランスのとれた成長を目指し、今年は「イエス様のように子どもに仕える」ことを目標として、人格形成の基礎を培うことを目指した。

②文化面では情操的経験として 母の会主催の「ライアーの会」によるライブを実施した。内容は、「絵本の読み聞かせ」「手遊び」「ライアーの演奏」最後にミニライアー体験として楽器に直接触れて音を出したり、初めての楽器に触れて楽しい思い出ができた。

1. 法人

(1) 創立 80 周年を挙

- ①平成 27 年 12 月 5 日創立 80 周年記念式典を長崎ブリックホールで約 2000 名の来賓・教職員・学生・生徒が参加し挙
- 行した。引き続き、祝賀会を長崎新聞社アストピア大ホールで約 300 名の来賓、教職員が参加して実施した。
- ②創立 80 周年記念展「純心ゆかりの作家、長崎ゆかりの作家」を 12 月 1 日から 13 日まで長崎県美術館で開催した。

(2) 中期目標・中期計画等

- ①平成 27 年度の点検評価を項目毎（教育、研究・実践、地域貢献、財務）及び事業所毎に行い、平成 28 年 3 月 7 日の理事会で承認を得た。

(3) 規則等の制定、改正

- ①役員就業規則を制定した（平成 28 年 4 月 1 日施行）。
- ②役員報酬規程を改正した（平成 28 年 4 月 1 日施行）。
- ③学園の給与規程を改正した（平成 28 年 4 月 1 日施行）。
- ④学園の旅費規程を改正した（平成 28 年 4 月 1 日施行）。
- ⑤純心大学特待生規程を制定した（平成 29 年 4 月 1 日施行）。
- ⑥純心女子高等学校の収容定員を 720 名にする学則の改正を行った（平成 29 年 4 月 1 日施行）。
- ⑦純心女子高等学校の推薦入試による入学者の入学料の全学免除及び半額免除の規程を制定した（平成 29 年 4 月 1 日施行）。
- ⑧学園の資産運用規程を制定した（平成 27 年 9 月 14 日施行）。
- ⑨学園の職員退職金規程を改正した（平成 28 年 4 月 1 日施行）。
- ⑩学園の寄付行為を改正した（聖母会の名称変更）（平成 27 年 4 月 1 日施行）。

(4) 大学学生寮の竣工

- ①大学に学生寮「マダレナ寮」が平成 28 年 3 月 29 日に竣工し、祝福式を挙

2 大学院

(1) 大学院の入試

- ①大学院の入試について（定員、学部成績上位者の推薦、ダブルディグ
- リ、試験のあり方、授業料免除制）を検討した。

(2) 予備審査会及び研究工程構想審査会

- ①研究指導の関係でルールに従い学生との研究計画立案、予備審査が密になった。

3 大学

(1) 点検評価計画

- ①平成 27 年～29 年度の点検評価工程表を策定した。
- ②平成 26 年度の自己点検評価項目（理念・目的、教育・教員組織、教育内容・方法・成果、学生
- の受入、学生支援、教育研究整備）を設定し、外部評価を受けた。

(2) 学則等の改正

- ①地域連携センター規則を制定した（平成 27 年 4 月 1 日施行）。

- ②国際交流運営委員会規則を制定した（平成 27 年 4 月 1 日施行）。
- ③非常勤講師任用規程を制定した（平成 27 年 4 月 1 日施行）。
- ④長崎純心大学学生の留学に関する規程を制定した（平成 27 年 4 月 1 日施行）。

（3）科学研究費補助金・科学研究費助成金等

- ①平成 27 年度科学研究費補助金の申請は、4 件申請し 1 件採択された。前年度からの継続が 1 件である。また、研究分担者として 1 件が採択された。
- ②長崎大学申請の「平成 27 年度未来医療研究人材養成拠点形成事業」の共同研究に継続して参画した。
- ③長崎県内大学間連携共同教育推進事業「長崎発グローバル人材育英プログラム」に参加した。
- ④長崎大学申請の平成 27 年度大学改革推進等補助金「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業COC+」に参画した。
- ⑤私立大学等総合改革支援事業への取組（タイプ 1 教育の質的転換）、タイプ 2（地域の発展を重層的に支える大学づくり）が採択された。
- ⑥私立大学等経営強化集中支援事業（タイプ A）が採択された。

（4）大学教育・研究事業

- ①学生の主体性を育てる地域貢献・国際交流活動
- ②コミュニケーション力向上を目指した英語教育
- ③社会福祉教材開発の共同研究を実施した。
- ④電子ポートフォリオ導入による初年時教育体制の構築
- ⑤学生の英語コミュニケーションを阻害する未習得文法項目の特定化及び指導法・教材開発
- ⑥ジャック・マリタンの人格・共通善論に関する研究
- ⑦児童生徒の学びの喜びー学習環境への眼差しーを探る国際研究

（5）平成 27 年度教員免許状更新講習の実施

平成 27 年度教員免許状更新講習を本学で実施した。

- ①開催日 平成 27 年 8 月 3 日から 7 日の 5 日間
- ②参加者数 必修領域の受講者 99 名、選択領域の受講者が 408 名 延べ 507 名
- ③時間数 延べ 13 コマ 84 時間
- ④教員数 延べ 29 名

（6）平成 27 年度幼稚園免許状特例講習の実施

- ①認定こども園法の一部改正により「幼保連携型認定こども園」に配置される職員は「保育教諭」の資格が必要となり、その資格取得のため特例講習会を実施した。

幼稚園免許状特例講習（保育・教育システム論、保育者論）に、13 名の受講者があり、平成 27 年 6 月 13 日、6 月 20 日の土曜日 2 日間 16 時間で 1 科目 1 単位の講習を 2 名の教員で行った。

（7）FD 研修等

- ①FD 研修は、平成 23 年 3 月 14 日（月）10 時 30 分から 12 時まで九州大学高田淳教授に

よる「内部質保証の在り方」の講演会及び意見交換会が行われた。13時から15時30分まで関西大学安藤教授による「学生の学びを支援するルーブリック評価」の講演と4分科会での議論が行われた。

②FDnewsletter 第4号を平成27年12月1日に発行した。

③授業参観は、平成27年11月7日～11月18日まで実施した。

④学生による授業アンケートを平成27年7月6日～7月29日で実施した。

⑤高大連携として純心女子高校で平成26年4月15日～7月15日まで14日間実施した。

また、純心大学で平成27年10月13日「大学へ行ってみよう！」の企画で純心女子高校1年生を対象に実施し、平成27年10月22日に「授業見学」を大学で実施した。

⑥出前講義を佐世保西高校で平成27年7月30・31日、8月5・6・7・8日の6日間、清峰高校で平成27年9月13日、長崎北陽台高校で平成27年10月26日、島原高校で平成27年10月30日に実施した。

⑦純心女子高校の教員と大学教員の打合せを定期的に開催した。

(8) SD 研修

①SD研修は、平成27年8月26日(水)「大学教育の質的転換」の研究発表を行った。また、「学園の中長期計画」「学園の経営・財務状況の把握・分析」をテーマに研修を実施した。

②平成28年1月6日(水)第2回SD研修は、「認定こども園を知ろう」「地域連携センターを知ろう」の研修を行った。

③平成27年度各課業務改善計画を4月に作成し3月に1年間の業務改善状況をまとめた。

(9) 学生活動状況

①東日本震災被害者支援ボランティア活動として、本年度も4名の学生が第16クールとして岩手県大槌町で被災者支援活動を行った(平成27年12月9日～15日)。

②学生の海外留学8名、研修実習21名合計29名の学生が海外渡航を行った。

③学生のボランティア活動として142名がUサポート、クレヨンメイト等の活動を行った。また、児童保育学科の学生延べ660名がボランティアとして幼稚園、保育園、小学校等で活躍した。

(10) 入試広報活動

①純心大学進学懇談会を平成27年6月24日36校38名の高校教諭の参加を得て開催した。

②山口、福岡、佐賀、大分、熊本、宮崎、6県の高校126校、長崎県の高校33校に教職員が訪問し大学の説明や学生の状況等の説明を行った。

③企業等が実施する進学説明会51会場に出向き大学の説明を行った。

④大村城南高校(46名)、長崎明誠高校(40名)、長崎女子高校(21名)、橘中学校(24名)から大学訪問を受け大学の説明を行った。

(11) 就職活動状況

①大学に、204社から269名の来訪があり、学内で54社が企業説明会を開催し、学生831名が参加した。

- ②教職員が197社を訪問し、大学の紹介・説明を行った。
- ③就職支援のためキャリアカウンセリングの充実を図った。
- ④福岡で開催された、企業合同説明会に学生150名が参加した。

(12) 施設整備・改修

- ①情報システムの開発促進を図った。
- ②受電設備・ボイラー設備の整備を行った。
- ③教室のプロジェクターの取替等教育設備の充実を図った。
- ④安全安心及び環境整備のため、トイレ改修網戸取り付け等を行った。
- ⑤学生寮の建替（耐震化）を行った。

4. 純心中学校・純心女子高等学校

(1) 教育における特色ある取組

『平成27年度の教育目標』純心女子学園創立80周年にあたり

- 聖母マリアに倣って学園の精神を生きる
 - ・清く賢く優しい女性の育成
 - ・神様にも人にも喜ばれる女性の育成
 - ・平和を祈り、平和を生み出す女性の育成
- 学園標語を生きる「マリア様 いやなことは 私がよろこんで」

【全校生】

- ①「朝の読書」8時35分～45分（10分間）実施
- ②基礎力充実テストの導入・実施（週1回 朝礼時 中学は国・英・数 高校は国・英）
- ③長崎県「魅力ある私立学校づくり支援事業」の補助を受け、グローバル人材の育成に力を注いだ。
- ④実用英語技能検定を全員受検（高Ⅲ 6月・高ⅠⅡ 10月・中学 1月）
- ⑤日本漢字能力検定受検（希望者）
- ⑥純心スポーツ特待制度の導入
- ⑦二十六聖人講話（2月4日1校時 川口昭人師）
- ⑧1年に1回、クラスごとに三ツ山のセミナーハウスに宿泊し、農作業・奉仕活動を体験（錬成会）
- ⑨『ヨーロッパ・ピアノ五重奏団ミニコンサート イン 純心』（11月11日 本校体育館）

【中学生】

- ①コース制（アドバンス・スタンダード）の充実
- ②ティームティーチングの実施 … 1年生の数学
- ③習熟度別授業の実施 … 3年生の国語・英語・数学
- ④総合学習・LHR … 救急救命サポート講座・心理セミナー・音楽鑑賞会・人権学習・薬物乱用防止教室（中3）など
- ⑤授業参観・懇親会・相談会（年2回）を開催
- ⑥定期試験前学習会の実施
- ⑦学力向上・体験学習を目的にセミナーハウスで1泊2日の夏期学習合宿を実施（希望者）
- ⑧キャリア教育

2年生 … 卒業生の体験談を聴く 3年生 … 職場体験・社会人になるためのマナー講座

⑨中学2年生 沖縄修学旅行（12月14日～16日）

【高校生】

①高校1年…初期指導を導入（4月の10日間）

・学び直し（国・英・数） ・キャリア教育、マナー教育、集団行動 など

②総合学習 … マナー講座・薬物乱用防止講座・人権学習・消費者講座 など

③永井隆の命日（5月1日）に墓参・清掃 … 中高生徒会・小羊会員（13名）職員（5名）

④魅力ある私立学校づくり支援事業講演会（5月30日 全校生）

講師：筒井久美子先生（立命館アジア太平洋大学 准教授）

目的：グローバル人材育成のための英語学習への動機付け

演題『それぞれのグローバル化を目指して』

⑤ハウステンボス英語研修 … 高Ⅱ文英コース（6月29日）

「イングリッシュスクエア」で英語研修 ※魅力ある私立学校づくり支援事業

⑥英語の多聴多読 … 高Ⅲ文英コース 於：CALL 教室

⑦高校Ⅲ年生 … 卒業前研修・体験学習（進路決定者）

・若者のための消費生活入門（消費生活相談員 大橋逸子氏）

・卒業を前に純心を知る（Sr. 山口キヌエ）

・デートDV 予防教室（DV 予防長崎 中田慶子氏）

・命を大切に（大村命を大切に会 梅野弘子氏）

・新生活応援セミナー（官公学生服・鈴木服装）

・選挙について（本校教員 新海・玉利・袖山）

・平和教育「吉永小百合 長崎朗読会 ～語り継ぐ祈り」参加

⑧長崎県高等学校国際教育研究協議会高校生夏季研修会参加（諫早青少年自然の家 7月15～16日）

⑨高校生模擬裁判選手権に、8名が弁護士役で参加（8月3日 於：長崎地方裁判所）

⑩高校Ⅱ年生 関東修学旅行（12月14日～17日）

⑪第3回吹奏楽部定期演奏会（1月31日 時津カナリーホール）

⑫東京純心高等学校Ⅰ年生が来校し、本校高校Ⅰ年生と交流会を実施（10月29日）

⑬長崎市選挙管理委員会による主権者教育実施（2月8日）

（2）国際交流

① 海外学校交流プログラム「第10回 韓国テレサ女子高等学校ホームステイ」

韓国釜山の姉妹校テレサ女子高等学校を、高校生15名・引率教員2名が訪問
韓国の文化を学び交流を深めた（5月8日～12日）。

② 日本メキシコ学院から学生2名来校。長崎純心大学の学生2名が引率し、授業体験（書道体験など）・授業見学・英会話クラブとの交流など、本校生にとっても異文化交流の機会となった（7月8日）。

③ ニュージーランドのオークランド市ホームステイに高校生8名・引率教員1名が参加。

セントメアリーカレッジでの体験学習・文化交流を実施（7月27日～8月9日）。

④ 海外学校交流プログラム 韓国釜山の姉妹校 テレサ女子高等学校の生徒来校。

生徒15名・引率教員2名が来校し、交流を深めた（1月26日～30日）。

⑤ 海外学校交流プログラム『第25回セントローレンスアカデミー ホームステイ』

アメリカのカリフォルニア州サンタクララ市にある姉妹校セントローレンスアカデミーを中学3年生9名・引率教員2名が訪問。語学研修と文化交流を実施（3月14～29日）。

（3）危機管理

① 「学校保健委員会」を2回開催した（7月23日・3月3日）。

② 「衛生管理委員会」を6回開催した。

③ 体罰アンケート実施（1月）。

④ 「いじめ防止対策委員会」で意見交換を行った（2月14日）。

（4）職員研修

① 校内職員研修 テーマ「学校改革のプロセス」（6月26日 金曜日 13:20～14:20）

講師 木下晴美先生（大分大学医学部准教授）

② 校内職員研修 テーマ「学園創立80周年を迎えて」（8月26日（水）13:20～16:20）

・森山叡子先生本校（第4代校長のお話）『純心精神について』

・森口麗子様のお話（純心短大 社会科2回生 元同窓会会長 『卒業生として伝えたいこと』

・ICT活用教育研修（iPadの操作方法 CYBERCAMPU・校内ネットワークについて）

③ 長崎カトリック教職員協議会 … 19名参加

講話 古巣馨師「カトリック・ミッションが伝えたいこと」

④ 長崎県高等学校・特別支援学校教育研究会美術・工芸研究大会（10月22日～23日）

研究授業 平山 理教諭 単元名「はじめての日本画」

⑤ 第45回長崎県私学教育研究会 数学部会（11月13日）

実践報告 井手真由美「純心中学校の数学教育の歩み」

⑥ 本校教員によるICT校内研修（12月8日）

⑦ グローバル教育研修・学校視察

・英文多聴多読活動研修の学校訪問及び授業見学（福岡女学院中学校・高等学校 4月23日）

・第45回英語の先生応援セミナー（福岡県中小企業復興センター 5月10日）

・鹿児島純心女子中学校英語弁論・暗唱大会査察（鹿児島純心中・高 7月9～10日）

・生徒の英語運用力を磨く研究会（博多駅前シティセンター 7月25日）

・小中9年間を通じた英語教育に関する研修会（長崎大学 8月24日）

・Intel Teach Program 1day（博多学園 8月29日）

・英語教育に係わる研修会（長崎総合福祉センター 11月9日）

・静岡英和女学院 ICT 公開授業見学（静岡英和女学院中・高校 11月14日）

・愛知多読教育新人セミナー（愛知県立大府東高等学校 11月14～16日）

- ・関西多読指導者セミナー（甲南大学 2月19～20日）
- ・野田学園高校グローバル・インターナショナルコース視察（山口県 2月23～24日）
- ・愛媛大学附属高校視察（愛媛大学附属高校 3月14～15日）
- ・日本多読学会児童英語部会 2016年春のセミナー（東京総合区民きゅりあん 3月20～21日）

⑧教科指導研修

- ・長崎県高等学校数学部会（北陽台高等学校 5月15日）
- ・スマイル学習（反転授業）公開学習参観（武雄北中学校 7月3日）
- ・長崎県算数・数学教育研究大会（県立諫早高等学校 7月6日）
- ・九州高等学校公民科教育研究協議会（宮崎市民プラザ 7月29～31日）
- ・第31回技術教育研究会（長崎大学 8月11日）
- ・学校体育指導者夏期実技講習会（長崎女子短期大学 8月19日）
- ・第52回全国高等学校美術、工芸教育研究大会（AOSSA 福井 8月19～21日）
- ・教師力アップセミナー（JR博多シティ 9月18日）
- ・「生徒の論理的思考力を鍛える」研究会（TKP 博多駅前シティーセンター 10月9日）
- ・第2回算数・数学教育研修会（代々木ゼミナール福岡校 10月25日）
- ・第2回佐世保北中高一貫教育研究大会（佐世保北中・高 10月27日）
- ・第54回九州地区学校体育研究発表会（アルカス佐世保 10月29～30日）
- ・第59回九州地区高校国語教育研究大会長崎大会（アルカス佐世保 11月5～6日）
- ・第13回キリスト教学校教育懇談会（プール学院中・高校 11月14日）
- ・第55回長崎県音楽教育研究大会（北陽台高等学校 11月19日）
- ・リクルート英語教育フォーラム「英語教育改革の現状と展望」（福岡天神センタービル 12月20日）
- ・第41回授業力UPゼミ「発信を見据えた指導方法と授業で行う効果的な活動紹介」（筑紫女学園中学・高校 3月26日）
- ・次世代教育推進セミナー（一橋大学一橋講堂 3月15～16日）
- ・ベネッセ総合的な学習の時間の活用を考える会（クラウンプラザホテル福岡 3月23日）

⑨進学指導研修

- ・公務員受験指導セミナー（麻生公務員専門学校 福岡校 4月28日）
- ・AO入試説明会（山口大学）・小論文指導法（ソラリア西鉄ホテル 5月12日）
- ・高校教員懇談会（高校教諭対象講演会）（KKR ホテル博多 5月12日）
- ・高大接続フォーラム～高校改革・大学改革・入試改革について考える（梅田スカイビル 6月5～6日）
- ・IAA 学校説明会 オープンキャンパス（IAA 福岡本校 6月7日）
- ・長崎県立大学入試連絡会（長崎県立大学佐世保校 6月17日）
- ・上智大学説明会（エルガーラホール 6月20日）
- ・第32回授業力UPゼミ「授業と活動とフィードバックの関連性」（筑紫女学園中学・高校 6月21日）
- ・東京12大学フェアin 福岡（福岡市エルガーラホール 6月21日）

- ・テーブル設計実践一日速習研修（福岡市博多 フロントアリンク KK 6月23日）
- ・岡山大学・広島大学入試説明会（福岡 JR 博多シティ 6月11日）
- ・福岡女子大学入試概要説明会及び新キャンパス見学会（福岡女子大学 6月26日）
- ・国際教養大学入試説明会（代々木ゼミナール福岡校 6月27日）
- ・北九州市立大学進路指導担当者懇談会（北九州市立大学 7月1日）
- ・TAKIMOTO Messe2016 講演会（アクロス福岡 7月2日）
- ・宮崎公立大学入試説明会（宮崎大学 7月6～7日）
- ・長崎大学入試連絡会（長崎大学中部講堂 7月21日）
- ・九州夢大学 河合塾 高大接続改革シンポジウム（福岡国際センター 7月29～30日）
- ・河合塾教員研修プログラム（東京麹町校 7月31日～8月1日）
- ・大学入試改革 先取り対応セミナー（ヒルトン福岡シーホーク 8月3日）
- ・小論文指導講習会 福岡カレッジ オブ ビジネス（8月3日）
- ・大学入試改革の行方～アクティブラーニング・アダプティブラーニング（TKP ガーデンシティ天神 8月8日）
- ・大学入試改革 先取り対応セミナー（ホテルセンチュリー21 広島 8月10～11日）
- ・壺溪塾進路指導研究会（ホテル日航熊本 8月26日）
- ・夢ナビライブ 2015（マリンメッセ福岡 10月17日）
- ・入試対応型の英語4技能指導セミナー（TKP 博多駅前シティーセンター 11月6日）
- ・第2回大学入試研究会（九大指導研究会）（諫早観光ホテル道具屋 11月8日）
- ・進学基準研究機構第1回シンポジウム「教育のグローバル化と高大接続」（ベルサール新宿 11月28日）

⑩ICT 活用教育研修

- ・第6回教育ITソリューションEXPO（東京ビッグサイト 5月21～22日）
- ・電子黒板等 ICT 機器を活用した授業づくり研修講座（長崎県教育センター 5月27日）
- ・CMS ではじめる Web サイト入門・活用講座（国立情報学研究所 5月28日）
- ・NEW EDUCATION EXPO2015（東京7ファッションタウンビル 6月4～6日）
- ・佐賀県 ICT 活用教育フェスタ（佐賀市文化会館 6月9日）
- ・教育の ICT 化に生かす HTML5 アプリ開発研究講座（県教育センター 6月17～18日）
- ・NEW EDUCATION EXPO2015（大阪マーチャングダイズ・マート 6月19～20日）
- ・chromebook 体験セミナー（福岡市天神クリスタルビル 6月24日）
- ・アクティブラーニング職員研修 GoogleApps 進学情報（鹿児島純心高等学校 6月27～28日）
- ・NetCommons システム運用講座（国立情報学研究所 6月29～30日）
- ・立命館守山中・高の ICT 公開授業見学（立命館守山中・高校 7月10～11日）
- ・長崎県高校・特別支援学校教育研究会メディア教育部会（県立小浜高等学校 7月15日）
- ・古河市教育 ICT フォーラム（古河市生涯学習センター総和 7月24～25日）
- ・情報教育セミナー（タブレット端末活用とアクティブ・ラーニング）（ニッショホール 7月26～27日）
- ・高校 ICT 教育のための Java プログラミング研修講座（県教育センター 7月27～28日）
- ・熊本県「教育の情報化」推進フォーラム 2015（熊本県民交流館パレア 7月31日）

- ・河合塾 教員研修プログラム（河合塾福岡校 8月22日）
- ・Net Commons ユーザカンファレンス2015（学術総合センタービル 8月24日）
- ・福岡教育大学附属福岡中学校教育研究発表会（福岡教育大学附属中学校 9月10日）
- ・みらいスクールステーション（富士ソフト）を使った公開授業（福岡市立東光中学校 10月6日）
- ・学校教育の情報化指導者養成研修（茨城県教育研修センター 10月26～30日）
- ・京都市立堀川高校 第17回教育研究大会（堀川高校 11月19～20日）
- ・山口県中学校情報教育研究会（多布施町多布施中学校 11月26～27日）
- ・教職員対象研修会（KCS 福岡情報専門学校 12月24日）
- ・学校に導入した iPad の効率的な管理・運用手法を学ぶワークショップ（工学院大学 2月27日）

（5）中高大連携活動

- ①高Ⅲ生徒向け進学説明会（6月26日）
- ②全学年対象オープンキャンパス（7月4日）
- ③純心大学教員の高校Ⅱ年生対象（3クラス）授業 … 毎週水曜日1校時（4月15日～7月15日）
- ④純心大学教員の協力による『イングリッシュカフェ』 … 中学生希望者対象（7月30～31日）
- ⑤『大学へ行ってみよう』 … 高校Ⅰ年生対象 21名 10月13日（10:00～13:10）
- ⑥英語情報学科の授業見学 … 高校Ⅱ年英語コース対象 34名 10月22日（12:00～15:20）

（6）平和教育

- ① 世界平和を願って、聖堂で朝8時からロザリオの祈りをクラスごとに実施（63年目）。
- ② 高校Ⅰ年生 被爆体験講話 … 講話者 奥村アヤ子氏（長崎平和推進協会）（6月20日）
- ③ 平和学習講話 … 高Ⅱ 被爆体験者 城臺美彌子氏（6月27日）
- ④ 「長崎殉難教え子と教師の像」慰霊式参列 … 中学生徒会（8月4日 平和記念会館）
- ⑤ 2015 広島ピーススタディに 高校生9名参加（広島市内 8月5～6日）
- ⑥ 本校で行われた「福島県いわき市 中高生徒会との交流会」に、純心中高生徒会役員17名が参加し、平和・震災・復興について、意見交換を行った。（8月7日）
- ⑦ 『第4回歌の千羽鶴』セントポール市訪問（8/5～8/15 生徒15名 教員1名）
- ⑧ 長崎原爆犠牲者慰霊平和記念式典（8月9日） … 中学生2名代表出席
- ⑨ 被爆70周年長崎原爆犠牲者慰霊平和式典（8月9日 長崎市主催 平和公園）で、高Ⅰ・高Ⅱ（1組と2組）が「千羽鶴」を合唱（1956年から59回目）。
- ⑩ 長崎原爆純心学徒隊校内慰霊祭に中学生・高校Ⅱ・Ⅲ年生が参加（8月9日）。
- ⑪ 『国連合唱団 ～平和と希望のコンサート～』高校音楽部出演（8月9日 ブリックホール）
- ⑫ カトリック長崎大司教区平和推進委員会主催「沖縄平和学習」参加（8月17～20日 高校生2名）
- ⑬ 第61回パグウォッシュ会議世界大会（長崎）時に公演された、能『長崎の聖母』で、

高校音楽部がグレゴリオ聖歌を歌った（長崎大学医学部記念講堂 11月3日）。

- ⑭ 世界平和祈念市民大行進における吹奏楽部演奏（平和公園から原爆中心地 10月24日）
- ⑮ 中学2年生が、沖縄修学旅行で沖縄戦の学びを通して平和の尊さを学習（12月14日～16日）。
- ⑯ 高校Ⅲ年生の進路決定者が長崎原爆資料館見学（2月下旬）

（7）地域貢献

- ① 吹奏楽部 クルーズ船（カドニアン・スカイ号）出港セレモニー（松ヶ枝ターミナル 5月6日）
- ② 「犯罪・交通事故のない安全安心なまちづくりに関する協定」締結（2月23日）

（8）活動部門 表彰

【中学校】

- ① 日本私立中学高等学校連合会会長賞受賞 3年 森内美帆
- ② 「ながさきユニバーサルデザインアイデアコンクール」 大賞 2年 春田菜々子
- ③ 「第37回全日本中学生水の作文コンクール」 最優秀賞（長崎県）3年 山田瑠璃愛
- ④ 「NCCおかあさんの詩コンクール」 NCC賞 3年 榎場なずな
- ⑤ 「平成27年度明るい選挙啓発書写コンクール」 最優秀特選 3年 山口実桜
- ⑥ 「平成27年度交通安全に関する作文」 最優秀（知事）賞 2年 春田菜々子
優秀賞 3年 森内美帆
- ⑦ 「第6回長崎県総おもてなし運動作文コンクール」 おもてなし特別賞 3年山口実桜
- ⑧ バスケットボール部
 - ・長崎新聞社杯争奪中学校大会 優勝 ・長崎市中学校総合体育大会 優勝
 - ・長崎県中学校総合体育大会 優勝 ・第45回長崎市会長杯争奪中学校大会 優勝
 - ・長崎市中学校総合体育大会新人大会 優勝
 - ・長崎県中学校総合体育大会新人大会 第3位
 - ・長崎県選抜選手 2年 岩永慶香 入口梨紗 吉原陽世
- ⑨ 体操部
 - ・長崎市中学校総合体育大会 団体 優勝 ・長崎県中学校総合体育大会 団体 準優勝
 - ・長崎県中学校総合体育大会新人大会 団体 第3位
- ⑩ コーラス部
 - ・平成27年度長崎県中学校文化活動推進校に選出
 - ・第70回九州合唱コンクール 県大会 金賞 九州大会 金賞
 - ・第82回NHK全国学校音楽コンクール 県大会 金賞 九州大会 奨励賞
 - ・第22回アンサンブルフェスティバル アンサンブル賞 もってこい賞（W受賞）
- ⑪ 水泳
 - ・長崎市春季大会 50m背泳 第1位 100m背泳 第2位
 - ・長崎市中学校総合体育大会 50m背泳第1位 100m背泳第2位 200m背泳 第3位
 - ・長崎県中学校総合体育大会 100m背泳 第2位 200m背泳 第3位

・長崎市中学校総合体育大会新人大会 2年の部 50m背泳 第1位 100m背泳 第1位

⑫アーチェリー

・平成27年度全九州選手権大会 リカーブキャデット女子の部 優勝

【高等学校】

① 長崎県教育委員会教育長賞受賞 III年 大浦瑞季

② 日本私立中学高等学校連合会会長賞受賞 III年 小林栞

③ 第70回国民体育大会出場

III年 小林 栞・岩崎ひなの・狩浦美優・II年 荒木裕美・I年 前田芽生（以上 バスケットボール部） III年 山口 晏奈（ゴルフ）

④ 「第11回全国高校生川柳コンクール」 西日本新聞社賞 I年 大久保裕子

『胸躍る オープンキャンパス 汽車の旅』

⑤ 「秋月ユース平和賞」 優秀賞 I年 原口春香 『母校での活動を世界へ』

⑥ 平成27年度長崎県高等学校国際教育研究協議会高校生英語弁論大会 最優秀賞 III年 中村藍海

⑦バスケットボール部

・平成27年度ジュニアスポーツ推進事業強化校に選出

・長崎県春季大会 優勝 ・長崎県高校総合体育大会 優勝

・全国高校総合体育大会（インターハイ）出場 2回戦進出

・全国高校選抜優勝大会長崎県予選（ウインターカップ予選）優勝

・全国高校選抜優勝大会（ウインターカップ）出場 ・長崎地区新人大会 準優勝

⑧バレーボール部

・長崎地区春季大会 準優勝 ・長崎県春季大会 第3位

・長崎県高校総合体育大会 準優勝 ・春の高校バレー長崎県予選 第3位

・長崎地区新人大会 優勝 ・長崎県新人大会 第3位

⑨ソフトテニス部

・長崎地区高校春季選手権大会 個人 優勝・第3位

・長崎市春季クラブ対抗選手権大会 団体 優勝

・長崎県高校総合体育大会 団体 第3位 個人 ベスト8

・長崎地区高校新人体育大会 個人 優勝・第3位

・長崎県高校新人体育大会 団体 第3位 個人 ベスト8

・長崎県高校団体選抜大会 準優勝 ・長崎市ジュニア団体選手権大会 準優勝

⑩陸上部

・長崎県陸上競技選手権大会 100mH 第3位

・長崎県高校総合体育大会 100mH 優勝 走高跳 第3位

・長崎県高校選手権大会 100mH 優勝 400mH 第2位 7種競技 第3位

・長崎県高校新人大会 4×100mR 第2位 4×400mR 第3位

⑪弓道部

・平成27年度ジュニアスポーツ推進事業強化校に選出

- ・第 18 回長崎地区弓道選手権大会 団体 A チーム 優勝 B チーム 第 3 位
- ・第 24 回 KTN 杯争奪長崎県弓道大会 団体 第 3 位
- ・長崎市長市議長楯争奪弓道大会 団体 優勝 個人 優勝
- ・長崎県高校総合体育大会 団体 第 3 位 ・長崎地区高校新人体育大会 団体 優勝
- ・第 34 回全国高校選抜大会長崎県予選 団体 準優勝

⑫ハンドボール部

- ・長崎市春季選手権大会 準優勝 ・長崎県高校総合体育大会 第 3 位
- ・長崎地区新人体育大会 準優勝

⑬空手道部

- ・長崎地区新人大会 団体組手 準優勝 個人組手 優勝
- ・第 44 回長崎空手道松濤会大会 団体組手 第 3 位 個人組手 準優勝

⑭体操部

- ・長崎県高校新人大会 団体 準優勝

⑮水泳

- ・長崎県高校春季大会 50m バタフライ 第 3 位 100m バタフライ 第 3 位
- ・長崎県高校総合体育大会 200m 個人メドレー 第 3 位

⑯音楽部

- ・平成 27 年度長崎県高等学校文化活動推進校に選出
- ・第 70 回九州合唱コンクール 県大会 金賞 九州大会 金賞 (連続 16 回金賞)

⑰吹奏楽部

- ・第 60 回九州吹奏楽コンクール長崎県予選 金賞
- ・第 42 回長崎県アンサンブルコンテスト混合五重奏 銀賞

⑱演劇部

- ・長崎県高校総合文化祭演劇部門長崎地区大会 優良賞

⑲写真部

- ・長崎県高文連写真専門部 第 11 回高校写真展 優秀賞

⑳放送部

- ・第 62 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト県南地区大会アナウンス部門 優秀賞 (1 名) 優良賞 (1 名) 朗読部門 優秀賞 (3 名) 優良賞 (2 名)
- ・第 62 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト長崎県大会 朗読部門 優良賞
- ・第 37 回九州高校放送コンテスト県南地区大会 アナウンス部門 優秀賞 (1 名)
朗読部門 優秀賞 (3 名) 優良賞 (1 名)

㉑図書委員会

- ・第 12 回ライブラリーフェスティバル県大会 図書館広報紙コンクール 最優秀賞
図書館 PR 大賞コンクール 優秀賞

(9) 施設設備

- ①ICT 教育のため、中学 1 年生対象に iPad (80 台) を導入
- ②校内無線 LAN の整備 (中学関係教室)

(10) その他

- ①中学校にメールシステム『メールメイト』を導入
- ②中学1年生に新制カバンを導入
- ③英語の多聴多読の推進のために英語教材を導入
- ④創立80周年記念事業として『目で見ると純心女子学園文教町キャンパスの歩み』を作成(2,500部)
- ⑤「第46回全日本教職員弓道選手権大会」で澁谷明美教諭が全国優勝(8月21～22日)

5. 幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園

(1) 幼稚園の運営

- ①定員 250名

園児数状況

年齢 (歳児)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	5	6	6	8	8	9	10	10	10	10	11	11
1	14	14	14	15	15	15	15	14	14	14	14	14
2	12	12	14	14	14	16	17	21	21	23	25	26
3	49	47	48	48	48	51	50	50	51	51	51	52
4	74	74	74	74	74	75	74	74	74	76	75	75
5	60	60	60	60	60	61	61	61	61	61	62	62
計	214	213	216	219	219	227	227	230	231	235	238	240
入所率 (%)	85	85	86	91	87	90	90	92	92	94	95	96

- ②職員数 平成28年度初 50名 正職20名 非常勤26名 派遣4名
平成28年度末 49名 正職19名 非常勤26名 派遣4名

職員の異動・採用

年月日	職名	氏名	年齢	資格
27/4/1	主任保育教諭	中井 美季	36	モンテッソーリディプロマ 幼稚園教諭 保育士資格
〃	保育教諭	松尾 裕貴子	42	幼稚園教諭、保育士資格
〃	〃	岩崎 佳余子		モンテッソーリディプロマ、 幼稚園教諭、保育士資格
〃	〃	田端 友樹		モンテッソーリディプロマ、 幼稚園教諭 保育士資格
〃	管理栄養士	鶴田 友理		管理栄養士、調理師
〃	非常勤職員	森塚 夏子		幼稚園教諭、保育士資格

〃	〃	太田 沙希		〃 〃
〃	調理師	川口 さくら		調理師
〃	栄養士	永留 真由美		栄養士
27/6/1	非常勤職員	田端 友樹		モンテッソーリディプロマ、 幼稚園教諭 保育士資格
27/10/16	非常勤職員	松本 理沙		モンテッソーリディプロマ、 幼稚園教諭 保育士資格

・退職

月日	職名	氏名	年齢	資格
27/5/31	保育教諭	田端 友樹	22	幼稚園教諭 保育士資格
27/8/31	非常勤職員	平野 和子	58	〃
27/10/31	〃	岩端 千絵	42	〃
28/3/31	保育教諭	岩崎 舞	28	〃
〃	〃	柴原 麻耶	26	〃
〃	〃	佐藤 優	32	〃
〃	〃	水江 枝理子	32	〃
〃	非常勤職員	松本 理沙	28	
〃	非常勤職員	野口 妙子	52	
〃	非常勤職員	岡本 仁美	28	臨床発達心理士幼稚園教諭 保育士資格

③職員会議開催状況

毎月一回、こども園としての園長・副園長・主任会を行い、全体のこと次月の教育保育内容、行事の様子や問題点、気づきを出し合い職員会議の資料を作成する。職員会議は、未満児はお昼寝の時間・以上児は終礼前の3時30分から月一回全員参加ができる時間を考慮して開催した。外部研修参加があった時は参加職員による研修報告と伝達を随時入れた。その他検討事項が出てきた場合は、その都度話し合いを行い、内容等は会議録として記し全職員に閲覧して職員間の共通理解に努めた。

(2) 保育・教育目標

「よこばれる人に」を目標として教育保育に努めた。

純心学園創立80周年の年にあたり、初代園長のお言葉を生きようと「神様にも、人さまにも喜ばれる人に」を標語にあげ、まずは教職員から笑顔で挨拶、自分にできる奉仕を喜んで実践し子どもたちにも毎日の教育保育の具体的な示唆としてきた。

(3) 教育・保育の状況

教育保育時間 8:30～14:30 (延長保育7:30～8:30 14:30～19:30)

保育短時間 8:30～16:30 (延長時間7:30～8:30 16:30～19:30)

保育標準時間 7:30～18:30 (延長時間18:30～19:30)

(4) 教育・保育内容

①一人ひとりを大切にする暖かい関わりの合いの中で、神さまの愛と生命の尊さを知り、

愛と奉仕のできる子どもの育ちを目指す。

- ②個別と自己活動によって自主・自立を助け、人格の基礎を培うモンテッソーリ教育において、0～6歳児のモンテッソーリ教育を導入し、個別活動の時間を充実させることが出来た。今後は0～3歳のモンテッソーリ教育の充実を図りたい。
- ③次世代の交流として 芋の苗植え、芋掘り、老人ホーム慰問、勤労感謝訪問など地域の方とのふれあいを持った。

(5) 給食の実施状況

- ①今年度より全園児に完全給食を提供することになった。改築したランチルームでの配膳の仕方やマナーをどのように子どもたちに伝えるのかなど月一回の給食検討会を持ち、現状をふまえ年齢に応じた配膳や個別の対応を検討した。
- ②季節の食材を取り入れ、和食野菜中心の献立を実施するように努力した。おやつもなるべく手作りのものを提供するよう心掛けた。食感や味覚、硬さ、柔らかさなど食材の切り方にも工夫した。
- ③アレルギー体質の子どもへの対応は、栄養士と保護者との個別面談を実施し医師の診断書を提出していただき、細かい打つ合わせや連携を密にし「アレルギー除去食依頼書」を事故のないようにした。また、ショック症状が出るお子様をお預かりすることになりエビペン使用方法を研修会に参加して学んだ。
- ④愛情弁当の日を毎月1回（0歳児は10月から）設定し、母親の手作り弁当を食べるようにし、親子で食への興味を持たせるようにした。月に一度、栄養士や保育教諭による食育の集いがあり 様々の食について学ぶ機会をもった。保護者がその日のメニューを直接見る事が出来るように献立ケースに展示した。

(6) 職員研修

- ①園内研修は毎月行い個別活動の見直しから、特別支援のケース会議の時間を持った。特に今年度内に専門機関に繋がるお子様や保護者のケアも必要となり臨床心理士の指導とまた、純心大学の連携センターの支援を受けた。
- ②モンテッソーリ教育においては主任と担任1名純心大学のコース養成と併せて大学や研修先での情報を提供し園内での学びを深めた。
- ③園外研修はモンテッソーリ教育や特別支援に関する県や市の主催する研修会に参加し研鑽をつんだ。また、外部講師による宗教教育研修を年3回行い、希望する非常勤職員にも参加を促した。

(7) 小学校連携

- ①西浦上・聖マリア・南山・精道小学校との交流事業を通して年長児が小学校生活への期待を持ち、小学校の雰囲気をもより良く知ること幼稚園からの移行をスムーズにすることを目的とした。不安を持っていた子どもたちも交流を通して入学への期待も膨らんできた。

(8) 長崎純心大学との連携

- ①児童保育学科の本田先生の指導をいただき年長児が卒園記念作品を泥粘土活動で制作した。その後は、自然探索を楽しみ聖堂でお祈りを捧げて大学の雰囲気を楽しんだ、

②絵画活動は年間を通して児童保育学科の塩月先生から3～6歳の園児が設定指導をいただきその中で具体的な保育教諭の環境設定・指導・観察の指導をお願いし、創立80周年記念の美術作品展示の現場でも直接指導をいただいた。

③幼稚園・保育園実習生の受入、またモンテッソーリコース養成コース実習受入時期はコースから3名のスタッフが実習指導に直接関わって頂いた。

(9) 純心聖母会との連携

①毎月一回純心聖母会主催の聖書勉強会に職員が自由に参加できるようシフトを組み、勉強会で学んだことを教育保育に生かせるようにした。今年度は、2年間洗礼の勉強を続けていた1名の先生が復活徹夜祭で受洗した。

②保護者の聖書勉強会(カンターボ)も毎月テーマを決めて呼び掛けたところ数名の保護者が年間継続して参加された。

(10) 苦情解決第三者委員

苦情解決責任者：園長 池田 洋子

苦情解決受付：副園長 田作 麻衣子

第三者委員：岩永 真智子・武藤 三千代・中村 メリ

※ 苦情受付件数は年間を通して5件ありました。

(11) 健康管理の実施状況

①児童

1) 小児科 年2回(5月、1月)園嘱託医による健康診断を実施した。

2) 歯科 年2回(6月、1月)園嘱託歯科医による歯科検診を実施した。

3) 尿検査(3歳以上)を5月に実施した。

4) 季節に応じて、健康管理、感染症などの注意を促した。感染症流行の兆しがある場合等はお知らせサイトで随時お伝えし、室内の換気及び空気清浄機を活用して感染の拡大を最小限にとどめるよう努めた。

5) 毎月、身体測定を行った。

②職員

1) 定期健康診断

年1回、西九州健康診断本部診療所による健康診断を全職員に実施した。

2) 検便

月1回、専門業社に依頼し、「赤痢・サルモネラ菌」「病原性大腸菌(O-157)」の検査を責任者と給食職員、乳児担任は毎月、全職員も年に1回は実施した。

平成27年度 行事

4月	年度始まり 入園式 歓迎遠足(未満児) クラス懇談会 年長組園外保育 ※避難訓練(毎月)
5月	視力聴力検査 内科検診(1回目) 4・5月生誕生会 ※
6月	年長組芋苗植え 英語教室参観日 ファミリーデー 歯科検診(1回目) ※

7月	七夕かざり すいか割り 6.7月生誕生会 交通安全指導 終園式	※
8月	夏期保育	※
9月	始園式 運動会 8・9月生誕生会 年長組小学校訪問	※
10月	入園説明会 お泊り保育 交通安全指導 お店屋さんごっこ 聖母行列	※
11月	お芋掘り 卒園児 Welcome Party (小さな献品屋さん) 10・11月生誕生会 七五三 お祝い会 勤労感謝訪問内科検診(2回目)	※
12月	クリスマス会 クリスマスパティー 終園式 入園面接(1号)	※
1月	始園式 年中・年少・年少少面談 12・1月生誕生会 豆まき 26 聖人巡礼 導入保育(1回目)	※
2月	歯科検診(2回目) 人形劇 2・3月生誕生会 入園説明会(1.2.3号) クッキング 導入保育(2回目) 入園面接(2.3号随時)	※

避難訓練

月 日	訓練内容	災害発生場所	避難場所
4/27	消火訓練	ほっともっと	園庭
5/25	火災・消火訓練・通報訓練	ほっともっと	園庭
6/10	水害	浦上川	2F ホール・ホーリーコーナー
7/13	地震による火災	給食室	机の下→園庭
8/12	水害	浦上川氾濫	3F サンタマリアホール・2階教室
9/2	火災・消火訓練	乳児室	園庭(雨天のためランチルームへ)
10/14	地震による火災	給食室	机の下→園庭
11/10	火災・消火訓練	ほっともっと	ランチルーム
12/22	不審者対応 地震・火災訓練	玄関 2F 給湯室	各クラス→園庭 (雨天のためランチルーム)
1/12	火災	ボイラー室	1F さくら・ばら組
2/16	北消防署と合同訓練	ほっともっと	園庭
3/14	地震・火災訓練	乳児室	机の下→園庭

《避難訓練についての心得》

- * その日の出席人数を確認し、把握しておくこと。
- * 放送を正しく聞き、災害発生場所を確認してから避難すること。
- * 避難時は出席簿、緊急連絡簿、救急用具、笛を必ず持つこと。

- * 避難時は私語を慎み、安全に留意し機敏に行動すること。
- * 避難場所に集合したら、クラス毎に整列させ、人員の確認を行い、園長・副園長に報告する。

幼稚園 職務分掌

職 務	業務内容	職務に係わる役割
総括責任者 園長 池田 洋子	運営管理総括 防火・衛生管理 会計管理 苦情解決責任	各職員への人員配置及び役割指示。 各法令の遵守状況監視 各担当の業務遂行の状況の把握と教育 クレーム処理
副総括責任者 副園長 田作 麻衣子	園長補佐 教育全般責任 幼小連絡責任 職員勤務管理 苦情受付担当	見学・入園相談窓口 各クラスの教育・保育の状況の把握 小学校との連絡・接続の把握と研究 職員のシフトの作成 保護者の相談窓口
主任 岩崎 舞	教育課程責任 子育て支援 行事責任者 教材物品責任 特別支援責任 保護者会担当 実習担当 バスコース担当	教育課程作成 子育て支援計画の作成 企画書の作成管理 教材物品管理及び発注 個別支援計画の作成と管理 保護者会との相談 実習生の受入と養成校との連携 バスコース編成作業・バス停確認作業
主任 中井 美季	保育全般データ責任 子育て支援 行事責任者 教材物品責任 特別支援責任 保護者会担当 実習担当 バスコース担当	年間計画全般の管理 子育て支援計画の作成 企画書の作成管理 教材物品管理及び発注 個別支援支援計画の作成と管理 保護者会との相談 実習生の受入と養成校との連携 バスコース編成作業・バス停確認作業

職 務	業務内容	職務に係わる役割
にじ 0歳児 クラス担任(2)	保育記録	年間計画・月案・週案・個人記録
	保育室衛生管理	掃除・照明・換気・保育用品の消毒
ほし 1才児 クラス担任(2)	保育記録	年間計画・月案・週案・個人記録
	保育室衛生管理	掃除・照明・換気・保育用品の消毒
	教材管理	教材室管理
	医務管理	医務用品管理・購入責任
そら 2歳児 クラス担任(2)	保育記録	年間計画・月案・週案・個人記録
	保育室衛生管理	掃除・照明・換気・保育用品の消毒
	安全点検	園庭及び遊具管理
	中期目標計画責任	平成29年度までの計画作成 園内外研修計画作成
	学園広報責任	学園広報原稿依頼窓口
	園内倉庫管理	各倉庫の整理・整頓・在庫管理
3.4.5歳児 クラス担任(7)	保育記録	年間計画・月案・週案・個人記録
	保育室衛生管理	掃除・照明・換気・保育用品の消毒
	体育道具管理	体育道具点検・管理
	中期目標計画責任	平成29年度までの計画作成 園内外研修計画作成
	HP更新担当	ブログ・お知らせ・変更作業
	ゴミステーション責任	ゴミステーション管理(掃除計画)
事務職員	事務全般責任	全園児名簿・職員名簿・台帳管理
	受付・電話窓口業務	受付対応・電話対応・来客接待
	保育用品・制服管理 保育料管理	保育用品・制服注文受付・発注 負担金・バス維持費・給食費・預かり保育費
	県・市の書類管理	書類の整理と管理
	運営費請求	運営費請求と確認
	預かり保育事務処理	預かり保育事務処理と報告
	シフト集計	非常勤職員の勤務計算

職 務	業務内容	職務に係わる役割
管理栄養士	栄養管理 アレルギー対応 環境・衛生管理	献立作成・アレルギー献立作成・保護者対応 給食材料おやつが発注と集計 検食・配膳作業 調理及び環境管理・火元責任
調理師	調理全般の管理 環境・衛生管理	給食材料検品検収 検便書類管理 調理及び環境管理・火元責任 アレルギー食担当
司書	図書館管理	図書管理（冊数の管理） 図書の貸出 子育て支援補助 図書館通信発行 図書館に関する実績と報告
子育て支援センター	子育て支援責任 子育て相談	子育て支援事業計画作成・報告 バンビ組・てんし組・さくらんぼ組 親子体操・リトミック・ベビーマッサージ 他 育児相談の個別連絡
預かり保育 ピースタイム	一時預かり責任	ピースタイムの計画作成 ピースタイムの保育室の衛生管理 掃除・照明・換気・保育用品の消毒 ピースタイム教材準備

6. 聖心幼稚園 平成27年5月1日現在 定員 110名 利用定員 60名 在籍数 51

(1) 教育

モンテッソーリ教育を柱として、環境整備を充実させ 精神的・身体的バランスのとれた成長を目指し、今年は「イエス様のように子どもに仕える」ことを目標として、人格形成の基礎を培うことをめざした。文化面では情操的経験として 母の会主催の「ライアーの会」によるライブを実施。「絵本の読み聞かせ」「手遊び」「ライアーの演奏」最後にミニライアー体験として楽器に直接触れて音を出したり 初めての楽器に触れて楽しい思い出ができた。

(2) 行事

今年も始園・終園の集いを聖堂にて祈りのうちに過ごすことを大切にしたい。母の日の集い、聖母祭、七五三、卒園式は中村神父様にお話をお願いして共に祈ることができた。特に卒園式には お祝いの言葉に加えて、神様の祝福をいただき、20名が卒園出来たことは大きな喜びであった。

お泊り保育は例年公共施設を利用していたが、台風等の諸事情も重なり幼稚園で実施した。母の会の協力をいただき、他では変えられない思い出の体験をすることができた。

(3) 保・幼・小連携事業

地域の保育園・幼稚園・小学校で年に数回 会議及び交流を行った。特に2月 年長組が小佐世保小学校へ行き、6年生との楽しい交流の中で 学校体験をして小学校入学への期待を持つことができた。3月に卒園し小学校へ入学した新一年生との交流会を持ちアルバム渡し、小学校の近況などを分かち合った。

(4) 職員の研修

①園内研修

第4土曜日 職員の資質向上と教育内容を充実させるため研修の伝達講習、発達障害の子どもへの関わりなど、職員が連携して取り組むための勉強会とした。

②園外研修

モンテッソーリ研修会、カトリック教師研修会、長崎県・佐世保市私立幼稚園教師研修会、障害児研修会

(5) 施設・設備及び修理

①テラス支柱の取り換え修理及び遮光ネットを張った。

②テラス及び駐車場の塗装と補修を行った。

③遊具の点検とペンキ塗装を行った。

④幼児用トイレの和式を洋式に取り換えた。

(6) 実習及び体験学習

①純心大学児童保育学科3年教育実習（1名）6月21日～7月3日

②体験学習 祇園中学校2年生（4名）11月4・5・6日

小佐世保小学校6年生（6名）7月8日

(7) その他

①平成28年1月28日 NCC長崎文化放送のテレビ番組「トコトン Happy」で生放送の取材があり、子どもたちのとおき、年長組の作品の紹介とインタビューがあり、全員で体操をした。

②フッソ洗口を毎日行った。

③4・5才児が実施した佐世保四ヶ町アーケードと JR 佐世保駅に全員で七夕飾りをした。

【Ⅲ】財務の概要

■平成27年度決算の概要

純心女子学園の平成27年度財務の概要についてご報告させていただきます。

まず、第一のご報告として、本学園は文部科学省所轄法人のため平成27年度の計算書類は、40年ぶりに改正された会計基準により作成し、平成28年5月末日に文部科学省に提出いたしました。

なお、提出までの経緯は以下のとおりです。

- ①27年度事業計画及び予算に従い執行し、日々の諸活動を計数化
- ②公認会計士による年間30日間の実地調査及び書類調査（平成28年5月18日報告書受理）
- ③公認会計士と本学園監事との意見交換等による連携
- ④本学園監事による計算書及び財務状況の監査実施

27年度決算の特徴

- ①平成27年4月新制度である純心幼稚園（幼保連携型認定こども園）設置に伴い、保育園部門を純心幼稚園と統合したため、法人組織の部門が7部門から6部門へ変更。
 - ②聖心幼稚園を施設型給付の幼稚園へ移行し、収入体制を変更。
 - ③会計基準変更による決算書書式の変更・追加などがあり、帳票及び取引の変更。
 - ④継続事業である建物耐震化工事として、大学学生寮の取り壊し及び改築工事実施。
 - ⑤私大等改革総合支援事業及び私大等経営強化集中支援事業を実施し、例年にない補助金獲得。
- 以上が27年度の主な特徴であり、27年度の収支状況に影響を与えることとなりました。

1) 資金収支計算書

資金収支計算書は年間を通しての資金の出入を表すとともに、資金の顛末を明確にするものです。今回の会計基準改正では若干の科目入替はありましたが、基本的に変更はなく従来の一覧制を重視し、年間の諸活動がすべて見える形として残りました。

27年度諸活動の資金収入規模は、繰越金を除き**30億8千万円**（26年度より1億8千万円増）予算に対し、3千7百万円の増額となりました。

支出規模は、収入と逆に繰越金を除き**31億1千万円**（26年度より約4千万の減額）予算に対し、予備費込みの2億1千万円の減となり、次年度繰越金は、前年繰越金3千百万円減の8億5千4百万円繰越となりました。ここでは、収支に影響を与えた主な費目についてのみ記載します。

○資金収入の部

資金収入の主な項目は、学生生徒等納付金・手数料・寄付金・補助金・受取利息等である。27年度の特徴は、第一の財源である学生生徒納付金が入学者数減少により26年度と比較し、大幅な減少となった反面、寄付金・補助金及び運用資産等の外部資金が増額になったことです。

学生生徒等納付金収入

総額15億6千万円となり、その基礎数は大学（大学院前・後期27名含む。）1,192名 高校666名 中学189名 幼稚園（2カ園）275名の総数2,322名（昨年差84名減）です。

寄付金収入

平成22年度から開始した80周年記念事業寄付金が主なものとなりますが、その他奨学金基金・教育設備・教育経費などの目的でご寄付をいただき、27年度寄付金総額3千7百万円でした。寄付者は学生生徒保護者・卒業生はじめ同窓会・幼稚園保護者会・大学後援会・諸団体及び教職員総数176名の方々からいただきました。

なお、27年度が学園創立80周年にあたり、記念事業を実施いたしました。この間、多くの方々からご協力を頂きました80周年記念事業寄付金についてのご報告をいたします。

学園創立80周年記念事業寄付金年度別一覧					
① 個人他団体様			② 企業様関係 (受配者指定寄付者)		①+②合計
平成22年度	280名	7,428,274円	-		
平成23年度	113名	6,225,000円	-		
平成24年度	132名	3,550,000円	25法人 7,230,000円		
平成25年度	107名	15,471,000円	4法人 700,000円		
平成26年度	935名	21,030,400円	1法人 400,000円		
平成27年度	161名	30,386,000円	-		
小計	1,728名	84,090,674円	小計 30法人 8,330,000円		総計92,420,674円

以上の貴重なご寄付を財源に、寄付の趣旨に基づき、純心大学地域連携センターの設立、文教町キャンパスの再整備及び奨学金基金制度の拡充などを実施いたしました。

補助金収入

補助金は、納付金に次ぐ第二の財源となっています。学園全体の補助金内容は、国庫補助金10件及び地方公共団体補助金20件の総額8億6千万円でした。特に大学の国庫補助金については、例年の補助金より約1億円のアップとなりました。

最大の要因は、総合改革支援事業取組の採択（千9百万円）と総合改革支援事業採択校への一般補助算定額19.1%の上乗せがあったことと経営強化集中支援事業採択（3千8百万円）により増額となったことです。

本大学が取り組んだ改革は、私立大学等総合改革支援事業への取組・強化4タイプのうち、3種類のタイプを目指しており、27年度はタイプ①とタイプ②が採択されました。

- ①タイプ1：教育の質的転換（26年度より継続）
- ②タイプ2：地域発展（27年度新規）
- (※タイプ3は産業界・他大学等との連携事業である。)
- ③タイプ4：グローバル化（新規計画） 28年度申請予定。

受取利息・配当金収入

昨年に比較し211万円増額の9千2百万円でした。運用の主な物件は減価引当金や奨学金基金等を社債・外国債等の有価証券で運用したものです。

○資金支出の部

資金支出においては、設備関係支出・その他の支出（引当関係支出）以外の経費支出はすべて増額となりました。人件費支出は、退職者が影響し、26年度と比較して増額となりましたが、恒常的支出である教職員人件費は減少し、人事定数化計画の結果が現われつつあるといえます。

人件費支出

退職金支出を除く教職員人件費支出は15億7千万円で対象教職員数（非常勤含む。）は延464名でした。また、退職者数は、教員29名職員2名の合計31名の1億7千万円でした。
（法人での人件費率60%目標）

教育経費・管理経費

昨年度に比較し4千5百万円の増額となりましたが、これは、学生寮解体工事や大学トイレ改修などの工事費に相当し、いずれも単年度事業によるものです。また、学生支援の強化により奨学費支出は年々増額の傾向にあり、現在、江角奨学金をはじめ兄弟姉妹減免制度など6種類の支援を実施しています。光熱費支出については、電気代の高騰にもかかわらず節減対策が実り、昨年と比し4百万円減少しました。

施設設備関係支出

施設設備関係支出は、総額3億9千5百万円でした。うち、中長期計画に従い23年度から計画的に実施している耐震化工事の継続により、27年度は大学学生寮を建替ました。旧学生寮は140名の収容定員でしたが、短大から大学の改組により入寮者が年々減少したため、収容定員35名に減少して建替えられました。

資産運用支出

資産運用支出は主に引当資産積立です。基本金計画に基づき第2号基本金引当資産へ4千5百万円第3号基本金引当資産へ1千2百50万円繰り入れました。また、27年度減価償却額発生分1億6千万円を減価償却引当特定資産として繰り入れ将来の再取得に備えました。

2) 活動区分資金収支計算書（27年度追加書類）

活動区分資金収支計算書は、資金の調達と使用の内容を明確にすることを目的とし、企業会計のキャッシュフローに相当するものです。1) で説明した資金収支計算と取引内容及び費目・金額ともにすべて同じものを目的により区分計上したものです。今回の基準改正で追加書類となり、3区分による資金情報の充実が図られました（組み替えたもの）。

①教育活動 ②設備投資 ③財務活動に区分し、学校法人の資金体質がわかるようになりました。例として補助金・寄付金などは目的により区分して表示することとなっている。

特に①の教育活動は学校の本業の収支のため原則プラスが大前提であり、本学は2億9千百万円のプラスとなりました。このプラスを財源として②の施設設備投資等が可能となります。

マイナスの場合は施設設備の充実はおろか、人件費や経費の支払いも不可能になってきます。

3) 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」は、27年度会計基準改正により従来の消費収支計算書を書式変更し、衣替えしたものです。従来までは一覧表示でしたが、昨今の災害や資産運用等による損失などの社会環境の変化や責任説明強化のため、他の会計基準を参考に、①教育を中心とした経常的な収支と、②臨時的な収支を分けて把握できるような様式になりました。

この計算書は、学園の1年間の収支均衡を明らかにし、同時に各区分における収支内容を把握する目的があり、学校法人の経営状態を表す重要な財務諸表です。変更は以下のとおりです。

(旧)	(新)
帰属収入	→事業活動収入 (収益)
消費支出	→事業活動支出 (費用)
帰属収支差額	→基本金組入前当年度収支差額 (当期利益)

本学園の状況

(取引が資金収支計算項目と重なる項目は省略します。)

事業活動収支計算のみに発生する非資金取引である減価償却額2億2千8百万円、現物寄付金7百万円及び学生寮取壊しによる資産処分差額など計算対象とした結果、教育活動収支差額6,999万円のプラスとなり、教育活動外収支を加えた経常収支差額は1億6千百万円のプラスとなりました。補正予算でマイナスを示していましたがプラスに転じたのは補助金獲得により、収入増となったこと、また支出においては補正予算に対し人件費、教育経費、管理経費とも合計9千9百万抑えられたため、基本金組入前当年度収支差額(帰属収支差額)が1億9千百万円となり、当年度収支差額は千9百万円の収入超過となりました。

(参照：基本金に関する説明)

基本金とは、学校法人が、教育研究活動を行うために必要な資産(校地、校舎、機器備品、図書、現金・預金等)を継続的に保持するために維持すべきものとして、授業料などの負債性のない収入(基本金組入前当年度収支差額)のうちから組入れた金額

基本金の種類

- ①第1号基本金 … 設立当初及び新たな学校の設置若しくは、既設の学校の規模の拡大や教育の充実向上のために取得した固定資産の額
- ②第2号基本金 … 将来取得する固定資産に充てるために、事前に計画的、段階的に積み立てる金銭その他の資産の額
- ③第3号基本金 … 奨学基金、研究基金など継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額
- ④第4号基本金 … 恒常的に保持すべき資金として、不測の事態に備える所定の運転資金

4) 貸借対照表

「貸借対照表」は、年度末3月31日における学園の財政状態と資産の構成を明らかにする財産一覧で、長期的な運営の方向性を決める判断材料となります。また、資産負債のバランスの状況を把握をすることができます。

資産の部においては5千7百万円の増額となっています。27年度は学生寮の改築工事がありました。が、解体した旧学生寮との調整となり、建物増額は8千2百万円です。図書・機器備品購入も起因しています。反面、流動資産である現金預金は、減少となりました。また、建物改築財源として、減価償却引当資産及び第2号基本金引当資産を充当したため積立金が7千8百万円減少しました。負債は、借入金の返済及び未払金の返済など全項目において減少し、その額は1億3千4百万円であった。よって、純資産は、1億9千百万円の増となり、本学園の資産額は138億1千7百万円となり、資産の93%は自己資金となっています。

なお、貸借対照表の取引基準等については、財務諸表に注記として添付いたしました。

A) 資金収支計算書

資金収支計算書

平成27年 4月 1日 から
平成28年 3月31日 まで

(単位 千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,559,457	1,560,888	△ 1,431
手数料収入	22,010	21,168	842
寄付金収入	35,626	36,892	△ 1,266
補助金収入	748,176	862,332	△ 114,156
国庫補助金収入	288,710	396,062	△ 107,352
地方公共団体補助金収入	334,618	341,035	△ 6,417
施設型給付費収入	124,848	125,236	△ 388
資産売却収入	100,000	1,899	98,101
付随事業・収益事業収入	4,229	5,330	△ 1,101
受取利息・配当金収入	88,960	92,456	△ 3,496
雑収入	183,784	195,419	△ 11,635
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	202,985	213,629	△ 10,644
その他の収入	562,835	559,871	2,964
資金収入調整勘定	△ 467,028	△ 471,081	4,053
前年度繰越支払資金	886,095	886,095	
収入の部合計	3,927,129	3,964,897	△ 37,768

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,765,255	1,748,996	16,259
教育研究経費支出	468,707	417,240	51,467
管理経費支出	150,782	120,959	29,823
借入金等利息支出	603	583	20
借入金等返済支出	28,687	28,687	0
施設関係支出	345,800	344,158	1,642
設備関係支出	59,636	51,419	8,217
資産運用支出	315,500	239,168	76,332
その他の支出	188,614	188,229	385
[予備費]	23,000	0	23,000
資金支出調整勘定	△ 20,606	△ 28,921	8,315
次年度繰越支払資金	601,151	854,380	△ 253,229
支出の部合計	3,927,129	3,964,897	△ 37,768

B) 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書

平成27年 4月 1日 から
平成28年 3月31日 まで

(単位 千円)

	科目		金額			
	科目	金額	科目	金額		
① 教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	15,608,888	③ その他の活動による資金収支	有価証券売却収入	1,899
		手数料収入	21,168		預り金受入収入	40,829
		特別寄付金収入	34,086		仮払金回収収入	2,220
		一般寄付金収入	5		小計	44,948
		経常費等補助金収入	764,377		受取利息・配当金収入	92,456
		付随事業収入	5,330		その他の活動資金収入計	137,404
		雑収入	195,419		借入金等返済支出	28,687
		教育活動資金収入計	2,581,273		有価証券購入支出	21,196
		人件費支出	1,748,996		第3号基本金引当特定資産繰入支出	12,469
		教育研究経費支出	417,240		預り金支払支出	41,579
		管理経費支出	120,959		仮払金支払支出	2,796
		小計	106,727			
		借入金等利息支出	583			
		その他の活動資金支出計	107,310			
		差引	30,093			
		調整勘定等	0			
		調整勘定等	0			
		その他の活動資金収支差額	30,094			
		教育活動資金収支差額	291,503			
② 施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	2,800	支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)		
		施設設備補助金収入	97,955			
		減価償却引当特定資産取崩収入	191,000			
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	105,000			
		施設整備等活動資金収入計	396,755			
		施設関係支出	344,158			
		設備関係支出	51,419			
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	45,000			
		減価償却引当特定資産繰入支出	160,503			
		施設整備等活動資金支出計	601,080			
		差引	△ 204,325			
調整勘定等	△ 148,988					
		前年度繰越支払資金	886,095			
		翌年度繰越支払資金	854,379,790			
		施設整備等活動資金収支差額	△ 353,313			
		小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 61,810			

C) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書

平成27年 4月 1日 から
平成28年 3月31日 まで

(単位 千円)

		科 目	予 算	決 算	差 異		
教育活動収入	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,559,457	1,560,888	△ 1,431		
		手数料	22,010	21,168	842		
		寄付金	35,216	34,092	1,124		
		経常費等補助金	642,801	764,377	△ 121,576		
		国庫補助金	183,335	298,107	△ 114,772		
		地方公共団体補助金	334,618	341,035	△ 6,417		
		施設型給付費	124,848	125,236	△ 388		
		付随事業収入	4,229	5,330	△ 1,101		
		雑収入	77,334	87,273	△ 9,939		
		教育活動収入計	2,341,047	2,473,128	△ 132,081		
		教育活動支出	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
				人件費	1,654,685	1,636,409	18,276
				教育研究経費	671,905	620,440	51,465
管理経費	176,113			146,289	29,824		
徴収不能額等	150			0	150		
教育活動支出計	2,502,853			2,403,138	99,715		
教育活動収支差額		△ 161,806	69,990	△ 231,796			
教育活動外収入	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異		
		受取利息・配当金	88,960	92,465	△ 3,505		
		その他の教育活動外収入	0	0	0		
			0	0	0		
			0	0	0		
	教育活動外収入計	88,960	92,465	△ 3,505			
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異		
		借入金等利息	603	583	20		
		その他の教育活動外支出	0	0	0		
			0	0	0		
		0	0	0			
教育活動外支出計	603	583	20				
教育活動外収支差額		88,357	91,882	△ 3,525			
経常収支差額		△ 73,449	161,872	△ 235,321			
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異		
		資産売却差額	500	1,899	△ 1,399		
		その他の特別収入	106,135	108,357	△ 2,222		
		施設設備寄付金	760	2,800	△ 2,040		
		現物寄付	0	7,602	△ 7,602		
		施設設備補助金	105,375	97,955	7,420		
		特別収入計	106,635	110,256	△ 3,621		
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異		
		資産処分差額	81,925	80,293	1,632		
		その他の特別支出	0	0	0		
			0	0	0		
			0	0	0		
		特別支出計	81,925	80,293	1,632		
		特別収支差額	24,710	29,963	△ 5,253		
〔予備費〕		23,000	0	23,000			
基本金組入前当年度収支差額		△ 71,739	191,835	△ 263,574			
基本金組入額合計		△ 165,967	△ 172,242	6,275			
当年度収支差額		△ 237,706	19,593	△ 257,299			
前年度繰越収支差額		1,122,329	1,122,329	0			
基本金取崩額		0	9,000	△ 9,000			
翌年度繰越収支差額		884,623	1,150,923	△ 266,299			

企業会計の営業利益に相当
マイナスの場合、施設拡充など不可
能

経常収入＝毎年、獲得可能
学校運営を継続する根幹

短期的差額

長期的差額

(参考)

事業活動収入計	2,536,642	2,675,849	△ 139,207
事業活動支出計	2,608,381	2,484,014	124,367

D) 貸借対象表

貸借対照表

平成28年 3月31日

(単位 千円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	12,677,151	12,639,544	37,607
有形固定資産	6,824,799	6,730,370	94,429
特定資産	5,365,430	5,443,448	△ 78,018
その他の固定資産	486,922	465,726	21,196
流動資産	1,140,029	1,120,550	19,479
資産の部合計	13,817,180	13,760,094	57,086
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	617,282	650,342	△ 33,060
流動負債	308,651	410,340	△ 101,689
負債の部合計	925,933	1,060,682	△ 134,749
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	11,740,325	11,577,083	163,242
第1号基本金	10,205,237	9,994,474	210,763
第2号基本金	826,000	886,000	△ 60,000
第3号基本金	529,088	516,609	12,479
第4号基本金	180,000	180,000	0
繰越収支差額	1,150,922	1,122,329	28,593
純資産の部合計	12,891,247	12,699,412	191,835
負債及び純資産の部合計	13,817,180	13,760,094	57,086

E) 財産目録

財産目録 (平成28年3月31日現在)

I 資産総額	13,817,181 千円
内 基本財産	6,824,799 千円
運用財産	6,992,382 千円
II 負債総額	925,933 千円
III 正味財産	12,891,248 千円

(単位 千円)

区 分	金 額
資 産 額	
1. 基 本 財 産	6,824,799
土 地	115,990.99 m ² 517,055
建 物	50,359.69 m ² 4,973,340
図 書	318,360 冊 1,078,523
教具・校具・備品	3,155 点 182,734
そ の 他	168 基 73,147
2. 運 用 財 産	6,992,382
預 金・現 金	854,380
そ の 他	6,138,002
資 産 総 額	13,817,181
負 債 額	
1. 固 定 負 債	617,282
長 期 借 入 金	202,512
退職給与引 当 金	414,770
2. 流 動 負 債	308,651
短 期 借 入 金	28,687
そ の 他	279,964
負 債 総 額	925,933
正味財産 (資産総額-負債総額)	12,891,248

(注) 土地の評価基準は、取得価額基準による。償却資産の評価基準は帳簿価額による。

償却資産の減価償却累計額は、3,609,811千円である。

(注記)

1. 重要な会計方針

引当金の計上基準

徴収不能引当金 未収入金の徴収不能に備えるため、未収発生会計年度末から3年経過した日の属する会計年度末に実績に応じ個別に計上する。

退職給与引当金 大学 期末要支給額 516,951,652円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入調整額を加減した金額を計上している。
 高校以下 期末要支給額 376,774,642円から長崎県私立学校退職金財団よりの交付金相当額を控除した100%を計上している。

その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的有価証券の評価基準は償却原価法である。
 有価証券の評価基準及び評価方法は移動平均法に基づく原価法である。

たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法に基づく原価法である。

所有権移転外ファイナンス・リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

預り金に係る収支の表示方法

預り金に係る収入と支出は相殺して表示している。

学生食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法

補助活動に係る収支は半純額表示であり、総額表示科目は人件費、施設・設備費、借入金 純額表示科目は補助活動収入及び経費関係である。

- 2. 重要な会計方針の変更等 なし
- 3. 減価償却額の累計額の合計額 3,609,811,033 円
- 4. 徴収不能引当金の合計額 0 円
- 5. 担保に供されている資産の種類および担保に供されている資産の種類および額は、次のとおりである。
- 土 地 23,166,780 円
- 6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金の組入れを行うこととなる 231,198,500 円
- 7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
 第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。
- 8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するための必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

種 類	当 年 度 (平成28年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	1,249,393,924	1,310,683,677	61,289,753
(うち満期保有目的の債券)	(1,147,609,524)	(1,204,373,700)	(56,764,176)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	1,232,931,900	1,052,128,630	△ 180,803,270
(うち満期保有目的の債券)	(850,000,000)	(717,921,000)	(△)132,079,000)
合 計	2,482,325,824	2,362,812,307	△ 119,513,517
(うち満期保有目的の債券)	(1,997,609,524)	(1,922,294,700)	(△)75,314,824)

② 明細表

種 類	当 年 度 (平成28年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	1,997,609,524	1,922,294,700	△ 75,314,824
株式	86,861,400	86,875,000	13,600
投資信託	397,854,900	353,642,607	△ 44,212,293
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	2,482,325,824	2,362,812,307	△ 119,513,517
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	2,482,325,824		

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンスリースは次のとおりである。

平成21年4月1日以降に開始したリース取引

リース物件の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
車 両	2,677,500	259,350
合 計	2,677,500	259,350

(3) 純額及び総額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

支	金 額	収 入	金 額
管理経費支出	36,060,397	補助活動収入	40,464,780
計	36,060,397	計	40,464,780
純 額			4,404,383

F) 監事監査報告書

平成28年5月10日

学校法人純心女子学園

理事長 片岡 千鶴子 様

学校法人 純心女子学園

監事

茶田 芳男 

監事

白濱 重晴 

監 査 報 告 書

私たち監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人純心女子学園寄附行為第7条第2項に基づき平成27年4月1日から平成28年3月31日までの平成27年度における学校法人の財務書類（財産目録、貸借対照表（附属明細表を含む。）並びに資金収支計算書（資金収支内訳表・人件費支出内訳表・活動区分資金収支計算書を含む。）及び事業活動収支計算書（事業活動収支内訳表含む。）を含め、学校法人の業務及び財産の状況に関し監査を行った結果、次のとおり報告します。

記

1. 監査の方法

- (1) 業務監査については、理事会に出席し、学校法人の業務執行状況等の適法性及び妥当性を検討しました。
- (2) 会計監査については、公認会計士の監査と並行して実施しました。

2. 監査報告

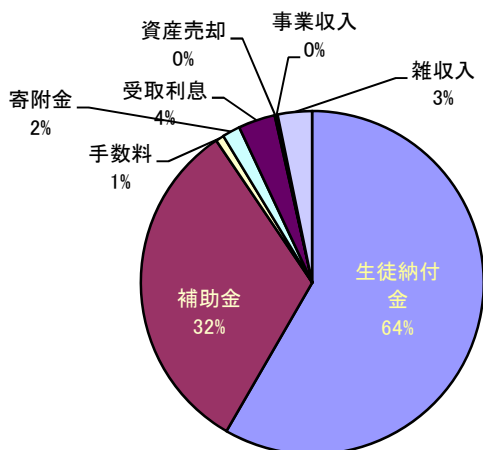
- (1) 学校法人の業務の執行状況に関しては、適正であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実がないことを確認しました。
- (2) 財産目録、貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動収支計算書は、会計諸帳簿の記載金額と合致し、記帳、計算ともに正確適切に行われている。また法令及び寄附行為に従い、学校法人の財産の状況及び収支の状況が適正であることを認めました。
- (3) 中期目標・計画について、平成27年度の実施状況は、概ね進捗している。今後の若年人口の減少に伴う経営環境の悪化に対処するためには、数値化になじむ事項である学生の定員、教職員の定数等を年度毎に数値化し、進捗状況を管理するよう検討してください。
また、平成28年度事業活動収支において、経常収支の均衡を図るべく、更に改善の努力を要します。

財務データ

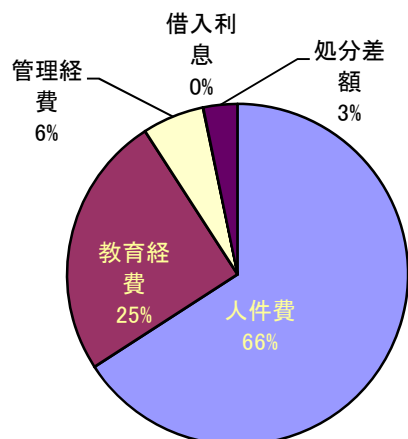
①事業活動収支関係

ア) 27年度構成比率(法人)

事業活動収入構成比率

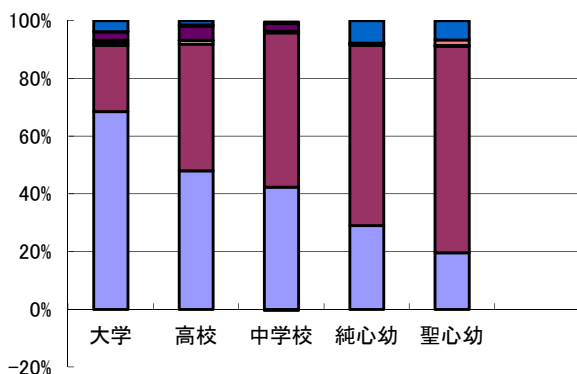


事業活動支出構成比率

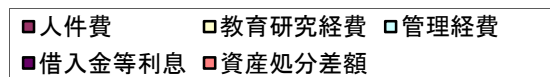
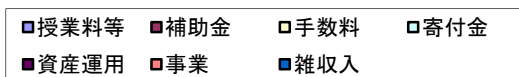
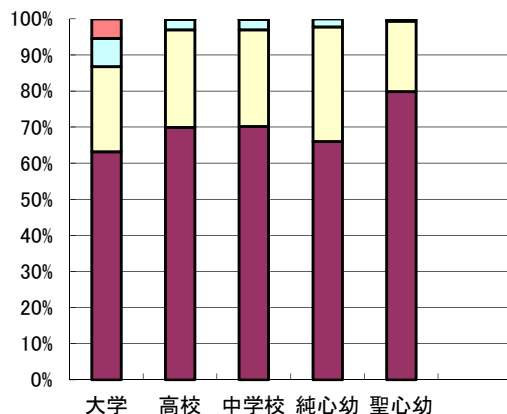


イ) 27年度事業活動収入構成比率(部門別)

事業活動収入構成比率



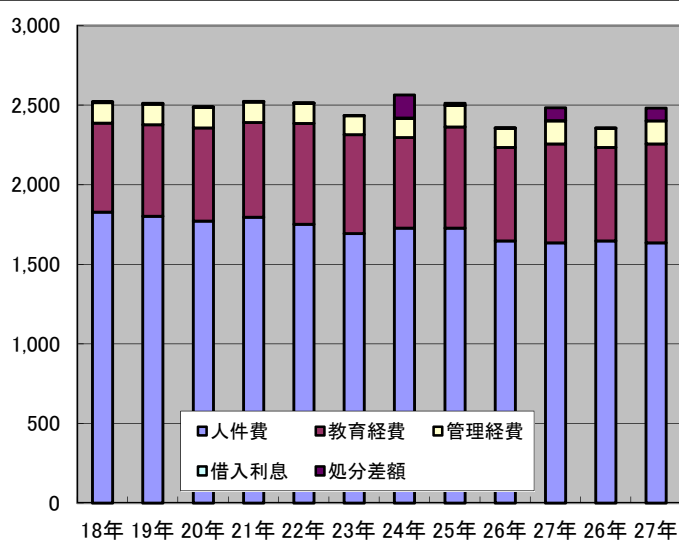
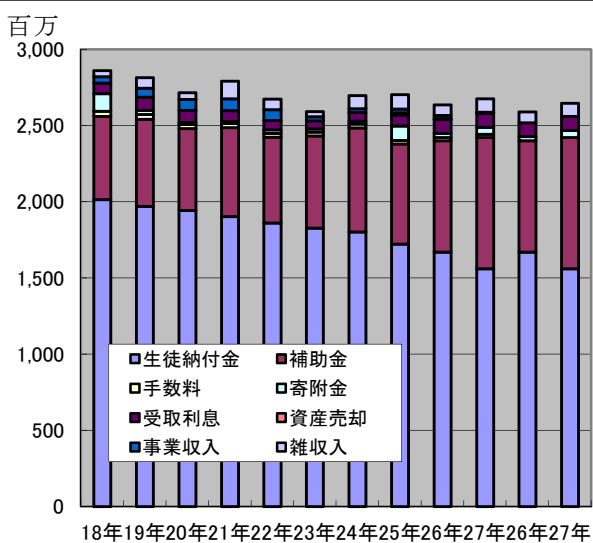
事業活動支出構成比率



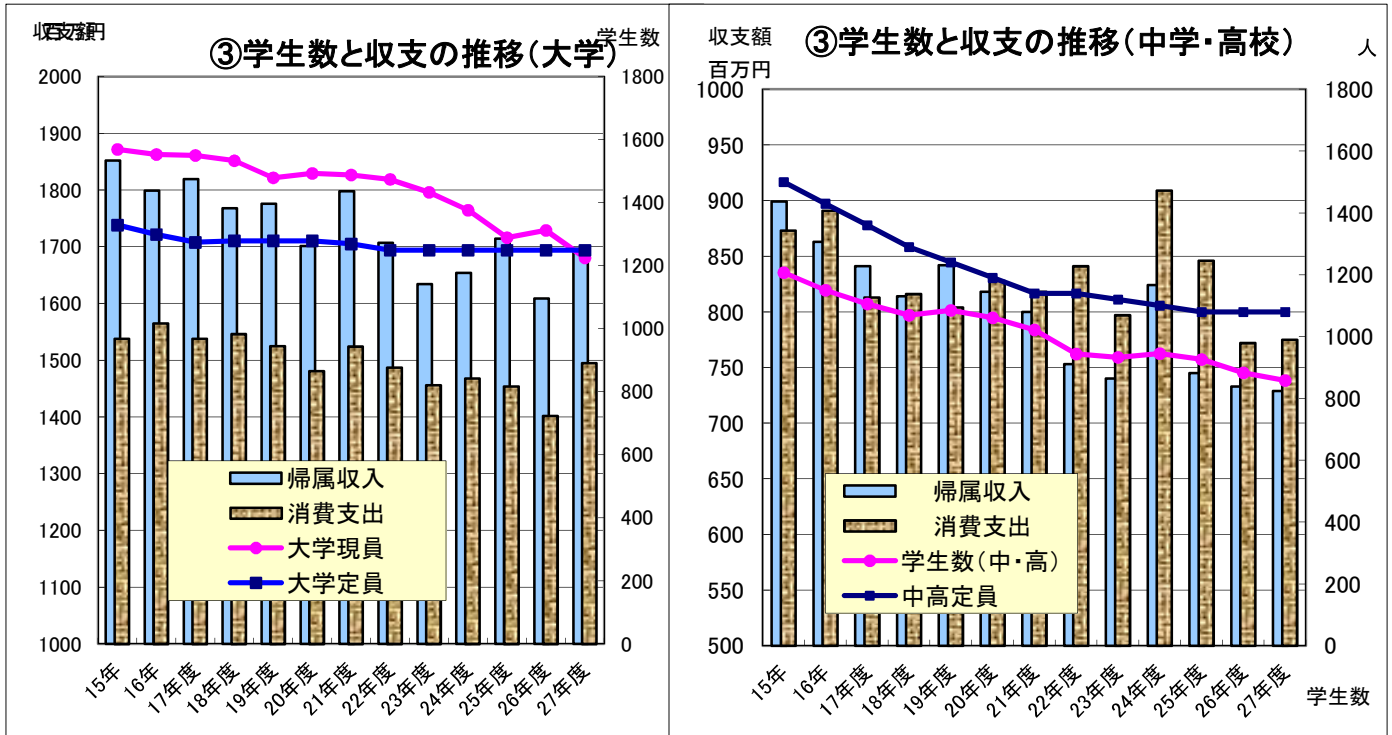
ウ) 事業活動構成比率推移(法人 10年間)

事業活動収入推移

事業活動支出推移

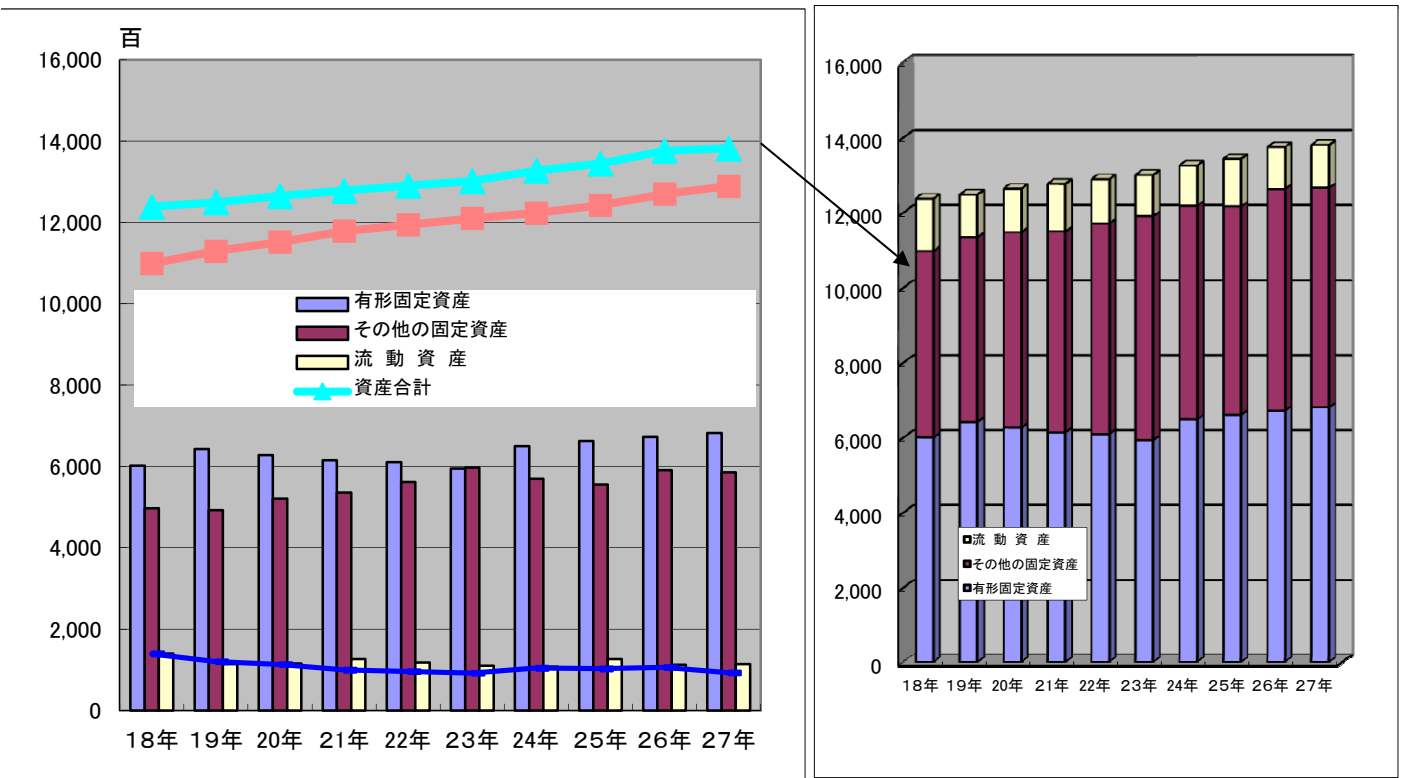


工) 学生数と収支の関係推移



・25年度は学生数減となったが遺贈特別寄付7千万により収入は増加

②貸借対照表関係 (資産・負債の推移)



※自己資金=基本金+消費収支差額

②財務関係比率

財務比率表（法人全体）

比率名称	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
1 固定資産構成比率	88.7	90.9	90.8	90.1	90.9	91.6	91.9	90.6	91.9	91.7
2 流動資産構成比率	11.3	9.1	9.2	9.9	9.1	8.4	8.1	9.4	8.1	8.3
3 減価償却率	38.8	36.2	38.2	35.8	42.1	44.4	40.2	40.6	41.4	40.8
4 固定比率	100.0	100.6	99.8	97.7	98.2	98.5	99.7	98.1	99.5	98.3
5 固定長期適合率	92.6	94.0	93.9	92.7	93.4	94.1	97.4	92.9	95.1	93.8
6 自己資金構成比率	88.7	90.4	91.1	92.2	92.6	92.9	92.2	92.4	92.3	93.3
7 消費収支差額構成比率	7.9	8.4	8.6	9.3	8.7	8.3	8.8	9.2	8.2	8.3
8 基本金比率	97.2	97.6	95.3	98.4	98.6	98.8	97.2	97.5	96.8	98.1
9 固定負債構成比率	7.1	6.3	5.7	4.9	1.1	4.4	5.4	5.1	4.7	4.5
10 流動負債構成比率	4.1	3.3	3.3	2.8	2.7	2.7	2.5	2.5	3.0	2.2
11 総負債比率	11.3	9.6	8.9	7.8	7.4	7.1	7.8	7.6	7.7	6.7
12 負債比率	12.7	10.7	9.8	8.4	8.0	7.6	8.5	8.3	8.4	7.2
13 流動比率	270.6	275.6	281.4	349.3	335.8	317.1	327.3	376.8	273.1	369.4
14 前受金保有率	339.5	386.6	364.8	408.1	422.6	381.7	390.0	472.6	439.8	399.9
15 退職給与引当預金率	78.9	87.2	92.0	84.0	84.9	87.7	94.3	93.3	95.6	96.7
16 積立率	137.5	142.8	141.4	139.0	136.9	135.1	130.5	133.4	124.3	124.6

比率名称	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
17 学納金比率	70.4	70.0	71.6	68.2	69.6	70.6	66.8	63.7	63.3	58.3
18 寄付金比率	4.0	1.0	0.5	0.4	0.9	1.0	0.7	3.5	1.1	1.7
19 補助金比率	19.1	20.3	19.8	20.9	21.1	23.3	25.3	24.3	27.7	32.2
20 人件費比率	64.1	64.0	65.3	64.3	65.5	65.4	64.1	63.9	63.3	58.3
21 教育研究費比率	19.6	20.5	21.5	21.4	23.7	23.9	21.1	23.5	22.3	23.2
22 管理経費比率	4.5	4.6	4.7	4.6	4.7	4.6	4.5	5.0	4.6	5.5
23 借入金等利息比率	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
24 基本金組入率	11.8	8.3	6.9	5.9	8.3	7.9	1.6	4.2	15.1	6.4
25 減価償却費比率	8.7	8.7	9.4	9.1	8.8	9.3	8.7	8.3	9.1	9.2
26 人件費依存率	89.7	91.4	91.2	94.4	94.2	92.7	95.9	100.4	98.6	104.8
27 消費収支比率	99.9	97.4	98.5	96.1	102.6	102.6	96.7	97.0	105.4	99.2
28 事業活動収支差額比率	8.6	10.7	8.3	9.6	5.9	6.0	4.9	7.1	10.6	7.2
29 教育活動資金収支差額	-	-	-	-	-	-	13.7	12.1	12.3	11.4